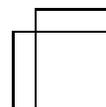
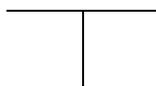
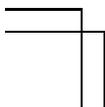


SFC CNSガイド

2005年度 冊子版

慶應義塾大学

湘南藤沢インフォメーションテクノロジーセンター



巻頭言

本書は、SFC-CNS のユーザに対する説明書、解説書、マニュアルです。これは、SFC において学ぶ学生、そこで教育や研究をする教員、大学の活動を支える職員、その他 SFC のさまざまな活動に関係している人たちが、SFC-CNS を有効に利用しようとするときに参照し、活用するためのガイドです。

SFC は 1990 年 4 月の開設以来、今年で 16 年目を迎えました。SFC-CNS は本格的な教育研究支援システムを目指して設計、構築され、毎年の更新により常に進化してきました。SFC-CNS では、継続的に機器の更新を行っており、現在、モバイル環境支援、教室のデジタル化、マルチメディア・システムおよび周辺機器導入、マルチメディア・コンテンツ(画像、映像、音声、文書などのメディア・コンテンツ)作成・処理機能支援など、21 世紀のデジタルキャンパスとしてふさわしいキャンパスネットワークシステムを構築することを目標として環境の強化に努めています。

本書は、従来より SFC-CNS において提供されてきたサービス、そして今年度から新しく提供されるサービスについて解説しています。本書は、開設時から学生諸君を中心とする CNS ガイド編集委員によって作成されてきました。内容の充実化にともない毎年量が増え、上下 2 巻構成となったことありますが、本年度からは、いつも持ち歩いて読めるように主要部分をパンフレット形式として配布し、詳細を記述した部分は Web 上に置き、インターネットを介して閲覧できるように構成しました。パンフレット形式の部分には最重要事項が記述されており、また、Web 上のものには詳細が記述されていますので、それらを併用して、効率良く参照して頂きたいと思えます。

SFC-CNS は、UNIX を基盤とした分散コンピューティング環境ですが、近年、Windows コンピュータ、Mac OS コンピュータなどさまざまなクライアント計算機が増えるにしたがい、UNIX の説明だけでなく、Windows や Mac OS の使い方についても詳しく取り扱うようになっていきます。また、単に機能を説明するのではなく、OS の種類を越えた概念の説明を重視し、いろいろな環境において応用できる内容となっています。

ここで、SFC-CNS を利用するあらゆるユーザにお願いしたいことがあります。それは、次に示すような情報社会の倫理をしっかりと身につけて守って欲しいということです。

- ソフトウェアの著作権等の知的所有権を尊重して、ソフトウェアの違法コピーは決してしないこと。また他人のファイルは尊重し、許可なく覗かないこと。
- SFC-CNS は教育、研究のためのシステムであることを理解し、それ以外の目的には使用しないこと。
- SFC 以外の組織のコンピュータに事前の許可なくリモートログインしようとは決してしないこと。

- SFC および SFC 以外の組織の掲示板等に落書きなどのいたずらは決してしないこと。
- 電子メールは読む相手がいることを意識し、中傷メールなどは決して送らないこと。また、チェーンメールなどは決して送らないこと。
- ホームページの内容は、世界中の誰でも読むことができることを認識し、内容を作成すること。作成に関して画像ファイルの違法コピーなど、他人の権利を決して侵害しないこと。
- その他、他人に迷惑のかかることは決してしないこと。

何か不安に思ったり、分からないことがある場合は、事前にメディアセンターの各コンサルタントおよび ITC に相談してください。

また、SFC-CNS はオープンなシステムを目指しており、管理や利用制限はなるべく行わず、自由にシステムを利用し、SFC において教育・研究が行えるようにしています。そのため、SFC-CNS を SFC に所属するユーザ全員が共有していることを認識し、秩序ある利用に心掛けてください。

本書の製作にあたっては、インフォメーションテクノロジーセンターに編集委員会を設け、内容の決定、執筆依頼、編集、内容のチェックなどを行ってきました。編集委員は、主として SFC-CNS の利用者である教職員と学生で組織していますが、学生諸君が大きな役割を果たしています。また、現在までに発行された版への意見や SFC-CNS に対する質問などを努めて反映しています。本書は、SFC における新しいコンピュータリテラシーやメディアリテラシーを身につけるための最も実践的な解説書としても位置付けられます。

今年度版の製作にあたり、資料の整理や内容のチェックなどさまざまな手伝いをして頂いた環境情報学部の松倉友樹君、政策・メディア研究科の藍澤雄一郎君および CNS コンサルタントの皆さんに深く感謝致します。また、今までの SFC CNS ガイドに関わってきた多くの皆様に感謝する次第です。最後に、この SFC CNS ガイドが、SFC-CNS で提供されている分散コンピューティング環境の今後の発展に寄与することを期待しています。

2005 年 3 月

ネットワークシステム委員会主査

清木 康

SFC CNS ガイド編集委員会代表

佐藤 泰介

SFC CNS ガイド編集委員

楠本 博之 萩野 達也 服部 隆志 安村 通晃

射場本 健彦 中村 翔吾 津田 恵理子 松原 弘典

西澤 聡子 江村 桂吾

インフォメーションテクノロジーセンター

辰巳 忠志 石井 涼子 藤井 清 山根 健

重近 範行 清水 智公 遠山 緑生

目 次

目次	v
本ガイドについて	vii
第I部 ようこそ CNS へ	1
1 CNS の利用について	3
1.1 CNS 利用に関する注意	3
1.2 CNS のサービスの概要	3
1.3 施設案内	4
1.4 CNS コンサルタントによる機器貸出	5
1.5 AV コンサルタントによる AV 機器貸出	8
1.6 CNS コンサルタントによるカラー出力	8
2 CNS のサポート体制	10
2.1 ITC	10
2.2 学生によるサポート組織	11
3 CNS アカウント	13
3.1 ログイン名とパスワード	13
3.2 ログイン・ログアウト	17
4 印刷	21
4.1 印刷料金について	21
4.2 プリンタの利用通知	21
4.3 年間印刷枚数の確認	22
4.4 印刷サービス利用上の注意	22
5 CNS の記憶メディア	23
5.1 ホームディレクトリ	23
5.2 メディアサーバ	24
5.3 共用作業領域	25
5.4 外部記憶メディア	26
6 ネットワーク環境に関する注意	27
6.1 セキュリティホール	27
6.2 コンピュータウイルス	27
6.3 スパムメール	29

7	コンテンツの作成と利用	32
7.1	コンテンツ利用の原則	32
7.2	Web ページやレポートなどの作成	32
7.3	P2P ファイル交換ソフトウェア	33
8	授業に関連した CNS の利用	35
8.1	レポートシステム	35
8.2	その他の授業に関連するシステム	37
第 II 部 個人所有 PC		39
1	CNS への接続	41
1.1	キャンパス内からの接続	41
1.2	キャンパス外からの接続	42
2	リモートホストへの接続	44
2.1	CNS のサーバ	44
2.2	Windows でのリモートログイン	44
2.3	Mac OS でのリモートログイン	46
3	ファイル転送	48
3.1	Windows でのファイル転送	48
3.2	Mac OS でのファイル転送	51
4	電子メールの利用	53
4.1	Windows での電子メールの利用	53
4.2	Mac OS での電子メールの利用	56
5	セキュリティホール対策	59
5.1	Windows Update	59
5.2	Apple Security Update	61
付録		63
SFC-CNS 利用内規		65
貸出ノート PC ソフトウェア一覧		66
CNS 関係組織連絡先		67
SFC CNS ガイドの著作権・著作権について		69

本ガイドについて

本ガイドの構成

CNS ガイドは、2005 年度版より、おもにオンラインで閲覧することを前提に編集されており、Web ブラウザを使って CNS ガイドの Web ページ (<http://cns-guide.sfc.keio.ac.jp/>) を開くことで閲覧できます。CNS ガイドの Web ページでは、旧版の CNS ガイドも参考として公開されています。また、印刷して手元に置きたい方のために、PDF 版も公開しています。

新入生の方々には、第 1 部 ‘ようこそ CNS へ’ と第 2 部 ‘個人所有 PC’ のみの冊子版 (この冊子) をお渡ししています。重要な事柄のみをまとめて冊子版としていますので、CNS を使い始めたばかりの新入生のみなさんは、本冊子を常に携帯し参照するとよいでしょう。

次に、各部の内容について説明します。

第 1 部 ‘ようこそ CNS へ’

CNS を利用する上で知っておくべき事項や、CNS で利用できる施設やサービスを説明します。

第 2 部 ‘個人所有 PC’

ノート PC などの個人所有 PC から CNS のサービスを利用する方法を説明します。

第 3 部 ‘UNIX’

第 4 部 ‘Windows’

第 5 部 ‘Mac OS’

CNS に設置された各 OS のコンピュータの利用方法を説明します。CNS は UNIX を中心としたネットワークですので、特に UNIX の部の内容はよく理解するようにしてください。

第 6 部 ‘Emacs’

CNS にてにおいて利用頻度の高いテキストエディタである Emacs について説明します。

第 7 部 ‘電子メール’

CNS における電子メールの利用方法について説明します。

第 8 部 ‘Web’

WWW における情報公開に関する技術である HTML や CSS などを説明します。

第 9 部 ‘L^AT_EX’

論文やレポートの記述で用いられている L^AT_EX を説明します。

本ガイドの表記

本ガイドの冊子版では利用者の便を考え、随所に参照先ページを示しています。冊子版には掲載しておらず、Web 版 CNS ガイドにのみ掲載されている内容を参照している場合は、`unix-ssh` のように、タイプライタ体の囲み文字で表記します。この文字列を Web 版 CNS ガイドのトップページ (<http://cns-guide.sfc.keio.ac.jp/>) のフォームに入力するか、または、<http://cns-guide.sfc.keio.ac.jp/jump?unix-ssh> のように URL を直接指定することで Web 版 CNS ガイドの該当箇所が開きます。

本冊子ではキーボードからの英字入力を 'a, b, c' のようにタイプライタ体で示します。キーボード上に書かれている 'Shift' などの英字以外のキー表記は小なり記号 ('<') と大なり記号 ('>') で囲んで表記します。

また、<CTRL> (コントロールキー) を押しながら a を押すことを C-a と表記します。

キーの呼称と本書での表記を次の表にまとめます。

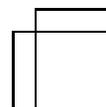
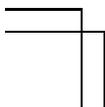
表 1 キーの表記方法と読み

表記	読み方	表記	読み方
<ENTER>	エンターキー	<BS>	バックスペースキー
<SHIFT>	シフトキー	<CTRL>	コントロールキー
<TAB>	タブキー		

本冊子では、ホスト名を ccz00 のようにタイプライタ体で表記します。また、zux??? のようにクエスチョンマーク ('?') があるホスト名の表記は zux000, zux001, zux002... のように、'? 'の部分に数字があてはまるホストが複数存在することを示します。

第I部

ようこそCNSへ



1 CNSの利用について

SFC-CNS または CNS とは湘南藤沢キャンパス-キャンパスネットワークシステムの略称です。コンピュータ同士を接続し、互いに情報を交換できる環境を‘ネットワーク’といいます。CNS の大きな特徴は、コンピュータの台数や、その性能、機器の種類の多様さもさることながら、そのネットワークの規模にあります。大きなネットワークを利用することは、多人数で環境を共有していることです。そのため、より一層セキュリティなどに配慮する責任も生じます。ここでは、CNS のサービスの概要と、それを利用する際の注意事項について説明します。

1.1 CNS 利用に関する注意

CNS は、学生や教職員、研究員で共有して使用しているため、ユーザにはマナーが求められます。次に基本的な事柄を記します。

コンピュータを利用しながら飲食をしない。

新オープンエリア、特別教室は飲食厳禁です。メディアセンターも、コンピュータが設置されている場所の飲食は禁止されています。コンピュータは精密機器であるため、ほこりや水に弱く、食べ物のかすや飲み物が故障の原因となります。

施設利用のマナーを守る

メディアセンターでは多くの学生が勉強しています。コンピュータを利用しながら大声で話をするようなことは迷惑になるので慎んでください。

コンピュータを占有しない

コンピュータの数には限りがあります。他のユーザの迷惑になるので、ログインしたまま長時間に渡って席を離れないようにしてください。

知的財産権を侵害しない

P2P ファイル共有ソフトウェアなどを利用しての楽曲の無断公開やアプリケーションの不正コピーなど、知的財産権侵害をしてはいけません。万一、そのような行為があった場合は、‘SFC-CNS 利用内規’ (p.65) に基づき CNS の利用承認の取り消しや CNS との接続の遮断が行われ、学則に基づき処分が行なわれます。学術目的に P2P ファイル交換ソフトウェアを使用する場合は事前に ITC (p.10) へ利用申請書を提出しなければなりません。

1.2 CNS のサービスの概要

CNS で利用できるおもなサービスを次に示します。

機器の利用

特別教室やメディアセンターなどに設置されたコンピュータを利用できます。これらのコンピュータにはワープロソフトや表計算ソフトはもちろん、コンピュータによっては映像編集や音楽制作のためのソフトウェアや機材も用意されています。これらのコンピュータからは設置されたプリンタを利用して、モノクロまたはカラー印刷ができます。また、リモートログインできる UNIX サーバも用意されています。

CNS への個人所有 PC の接続

ノート PC や自宅のコンピュータなど、個人所有 PC をキャンパス内からもキャンパス外からも CNS に接続できます。接続の方法は多数用意されており、所有するコンピュータや接続する場所の環境にあわせて選択できます。CNS に接続する具体的な方法は「CNS への接続」(p.41)を参照してください。

電子メール

CNS ではユーザにメールアドレスを発行し、電子メールのサービスを行っています。ユーザは t00000tf@sfc.keio.ac.jp のように、ログイン名の後ろに@sfc.keio.ac.jp をつけたメールアドレスをもちます。電子メールは IMAP を利用して CNS に設置されたコンピュータや個人所有 PC から利用できます。電子メールの具体的な利用方法は「電子メールの利用」(p.53)を参照してください。

個人の Web ページの公開

CNS のユーザは個人で Web ページを公開できます。CNS で公開された Web ページは、<http://web.sfc.keio.ac.jp/~t00000tf/> のように、[http://web.sfc.keio.ac.jp/~\(ログイン名\)/](http://web.sfc.keio.ac.jp/~(ログイン名)/) ではじまる URL をもちます。Web ページの公開の具体的な方法は [web](#) を参照してください。なお、Web ページの作成は、「コンテンツの作成と利用」(p.32)を参考にし、著作権などのルールやマナーを十分理解した上で行ってください。

1.3 施設案内

学生は原則的に 1 年 365 日、1 日 24 時間 CNS を利用できますが、CNS のコンピュータが設置されている学内の施設には、利用時間が定められているものがあります。また、これらの施設に入館・入室するには学生証が必要です。所持していない場合、学生であっても施設を利用できませんので必ず携帯してください。午後 11 時から翌日の午前 8 時の間に施設を利用する場合に

は、見回りの警備員が配布する夜間残留許可願に記入・提出する必要があります。ここでは、それぞれの施設の利用時間とその設備について説明します。

1.3.1 メディアセンター

平日は 9:15 ~ 23:00 , 土曜日は 9:15 ~ 19:00 に開館しています。日曜および祝祭日は休館です。長期休業などにより開館日・開館時間が変更になる場合は、メディアセンターの Web ページ (<http://www.sfc.keio.ac.jp/mchtml/>) に掲載されます。

表 1.1 メディアセンターで利用可能な機器, サービス

場所	機器, サービス	台数	ホスト名・プリンタ	備考
オープンエリア	Windows	5 台	mcsupc01 ~ mcsupc05	一時利用用
	Windows	5 台	mcvspc01 ~ mcvspc05	スキャナ専用
	モノクロプリンタ	2 台	nps13, nps14	
	カラープリンタ	1 台	color1	
	Windows	10 台	ispc072 ~ ispc081	映像編集用
ワークステーションルーム	Mac OS	9 台	mcmac01 ~ mcmac09	音楽制作用
	Windows	31 台	ispc040 ~ ispc071	映像編集用

また、メディアセンター内には多数の AV 機器が設置されています。AV 機器の利用に関しては‘AV コンサルタント’ (p.11), ‘AV コンサルタントによる機器貸出’ (p.8) を参照してください。

1.3.2 新オープンエリア

メディアセンターの北側にある新オープンエリアは、原則的に 1 日 24 時間利用できます。コンピュータは設置されていません。ノート PC を接続するための情報コンセントが 30 口あり、他にモノクロプリンタ (nps12) が 1 台あります。長期休業や諸事情で開室日・開室時間が変更になる場合は、メディアセンターの Web ページ (<http://www.sfc.keio.ac.jp/mchtml/>) に掲載されます。

表 1.2 新オープンエリアで利用可能な機器, サービス

場所	機器, サービス	台数	ホスト名・プリンタ	備考
新オープンエリア	情報コンセント	30 口		ノート PC 用
	モノクロプリンタ	1 台	nps12	

1.3.3 特別教室 ($\kappa 18$, $\varepsilon 17$, $\iota 18$, $o 17$, $\lambda 11$, $\lambda 18$, $\lambda 21$)

原則的に 1 日 24 時間利用できますが、授業で利用している時間帯は利用できません。また、夏季一斉休業中と年末年始の指定された期間は全ての特別教室が利用できなくなります。

$\kappa 18$, $\varepsilon 17$, $\iota 18$, $o 17$ のコンピュータは Windows と UNIX の両方が利用できます。それぞれの施設にある機器の設置場所については巻頭の教室配置図を参照してください。

表 1.3 特別教室で利用可能な機器，サービス

場所	利用可能な機器，サービス	台数	ホスト名・プリンタ名
κ18	UNIX	40台	zux000～zux039
	Windows	40台	zxp000～zxp039
	モノクロプリンタ	1台	nps4
ε17	UNIX	40台	zux040～zux079
	Windows	40台	zxp040～zux079
	モノクロプリンタ	1台	nps3
ι18	UNIX	40台	zux080～zux119
	Windows	40台	zxp080～zux119
	モノクロプリンタ	1台	nps2
ο17	UNIX	40台	zux120～zux159
	Windows	40台	zxp120～zxp159
	モノクロプリンタ	1台	nps1
λ11	Windows	41台	ixp000～ixp040
	モノクロプリンタ	1台	nps10
λ18	Windows	40台	ispc000～ispc039
	モノクロプリンタ	1台	nps5
λ21	Mac OS	41台	g4mac00～g4mac40
	カラープリンタ	1台	color4

1.4 CNS コンサルタントによる機器貸出

メディアセンター1階 CNS コンサルタントブースでは，Windows がインストールされているノート PC，DVD ドライブおよび無線 LAN カードの貸し出しを受けられます。貸出機器はキャンパス外への持ち出しはできません。貸し出しと返却の受け付けは 9:20～22:00 に行っています。

貸出機器を借用する場合は，あらかじめ CNS コンサルタントブースにある借用証に書かれた規約をよく読み，守ってください。借用時および返却時には学生証（教職員の場合はキャンパスカード）の提示が必要です。提示がない場合は借用・返却手続きを行えません。また，借用，返却ともに利用する本人がブースまで直接出向いてください。代理返却や代理借用はできません。

機器貸出についての詳細は CNS コンサルタントの Web ページ (<http://cnscon.sfc.keio.ac.jp/>) を参照してください。

1.4.1 ノート PC

IBM 社の ThinkPad T42 を貸し出しています。ノート PC を所有していない場合や，修理に出している際などに利用できます。貸出ノート PC は 1 泊 2 日まで借用できます。基本的な性能を

表 1.4 に示します。詳しくは製造元のページ (<http://www-6.ibm.com/jp/pc/thinkpad/tpt42/tpt42a.shtml>) を参照してください。

表 1.4 貸出ノート PC

CPU	Pentium M 1.60GHz
メモリ	1GBytes
ハードディスク	40GBytes
光学ドライブ	DVD-ROM, CD-ROM 読込可能 CD-R, CD-RW 書込可能

授業などで広く利用できるよう、貸出ノート PC には多くのソフトウェアがあらかじめインストールされています。インストールされているソフトウェアの一覧は‘貸出ノート PC ソフトウェア一覧’ (p.66) を参照してください。

1.4.2 DVD ドライブ

アイ・オー・データ社の DVRP-iUP2 を貸し出しています。データのバックアップや、課題の提出、光学ドライブが内蔵されていない個人所有 PC にソフトウェアをインストールする際に利用できます。貸出 DVD ドライブは日をまたいでの借用はできません。基本的な性能を表 1.5 に示します。詳しくは製造元のページ (<http://www.iodata.jp/prod/storage/dvd/2003/dvrp-iup2/>) を参照してください。

表 1.5 貸出 DVD ドライブ

インターフェイス	USB2.0, USB1.1
書込可能メディア	CD-R, CD-RW, DVD-R, DVD-RW
読込可能メディア	CD-ROM, CD-R, CD-RW, DVD-ROM, DVD-R, DVD-RW

1.4.3 無線 LAN カード

バッファロー社の WLI-PCM-L11 を貸し出しています。無線 LAN が内蔵されていない個人所有 PC を無線 LAN で接続する際に利用できます。貸出無線 LAN カードは日をまたいでの借用はできません。基本的な性能を表 1.6 に示します。詳しくは製造元のページ (<http://buffalo.melcoinc.co.jp/products/catalog/item/w/wli-pcm-l11/>) を参照してください。

表 1.6 貸出無線 LAN カード

インターフェイス	PC カード Type II
規格	IEEE 802.11b
最高通信速度	11Mbps

はじめて貸出無線 LAN カードを用いる場合、デバイスドライバのインストールが必要です。デバイスドライバの CD-ROM は貸出無線 LAN カードに付属します。Windows のコンピュータの場合は、カードを挿すと自動的にインストールされます。

1.5 AV コンサルタントによる AV 機器貸出

メディアセンター 1 階 AV コンサルタントブースでは、AV 機器の貸し出しを行っています。貸し出しと返却の受け付け時間は、AV コンサルタントブースにて平日 9:15 ~ 22:30、土曜日 9:15 ~ 18:30 です。

貸し出している主な機器を表 1.7 に示します。これらの機材を使用する際に使用する三脚、マイク、ライト、各種ケーブルなども同時に貸し出しています。また、メディアセンターの AV 機器を利用するために必要なマニュアル・リモコン類も貸し出していますが、これらはメディアセンター館内でのみ利用可能で、持ち出しできません。

館内専用の機材を除き、SFC の学生は最大 3 泊 4 日借用できます（教職員は 7 泊 8 日）。キャンパス外への持ち出しも可能ですが、借用者は責任を持って管理してください。他人への貸し出しは認めません。グループでの使用の場合、借用者が返却まで責任をもって管理してください。

AV 機器を借用する場合は、あらかじめ AV コンサルタントブースにある借用証に書かれた規約をよく読み、守ってください。貸し出しおよび返却時には学生証（教職員の場合はキャンパスカード）の提示が必要です。提示がない場合は貸し出し・返却手続きを行えません。また、借用、返却ともに利用する本人がブースまで直接出向いてください。代理返却や代理借用はできません。

AV 機器貸出についての詳細は AV サービスの Web ページ (<http://www.sfc.keio.ac.jp/mhtml/avhtml/>)、AV コンサルタントの Web ページ (<http://www.sfc.keio.ac.jp/mhtml/AVconsultant/>) を参照してください。

表 1.7 AV コンサルタント貸出機器

DV ビデオカメラ	Sony VX2000 Sony TRV950
Hi8 ビデオカメラ	Sony TR3000
デジタルスチルカメラ	Camedia C-4040 ZOOM Camedia C-4100 ZOOM
DAT デッキ	TCD-D8

1.6 CNS コンサルタントによるカラー出力

CNS に用意されているプリンタでは利用できないサイズ of 用紙に印刷したい場合や、OHP シートへの印刷を行いたい場合などのために、CNS コンサルタントではカラー出力サービスを行っています。カラー出力サービスを利用するには、メディアセンター 1 階 CNS コンサルタントブース

でカラー印刷申込書に必要事項(ファイルの形式,印刷サイズ,枚数など)を記入します。公費による印刷の場合,コンサルタントにその旨を伝え,公費用受付台帳に必要事項を記入します。利用者は直接プリンタを操作できません。

サービスが利用できるのは原則として平日の9:20~22:30です。長期休業の間などは時間が限定されるので,受付の掲示に注意してください。また,時間内でも印刷機器の故障など,都合により受け付けを中止する場合があります。

サービスの利用には表1.8に示す料金がかかります。サイズによる料金の違いはありません。2段階縮小などで必要になる途中結果のプリントなども料金も利用料金に加算されます。ただし,コンサルタントの責任によるミスプリントには料金は課されません。

表 1.8 カラー出力サービス利用料金

紙への印刷	1枚 150円
OHPシートへの印刷	1枚 200円

カラー出力サービスについての詳細は CNS コンサルタントの Web ページ (<http://cnscon.sfc.keio.ac.jp>) を参照してください。

2 CNSのサポート体制

CNSでは、CNS全体の管理や障害の対応、ユーザのサポートなどのため、様々な組織が活動しています。ここでは、これらの組織の活動内容や連絡先について説明します。

2.1 ITC

ITC (インフォメーションテクノロジーセンター) は CNS 全体の管理・運営を行っている組織です。

表 2.1 ITC について

場所	メディアセンター 1 階 北側 (CNS/ERNS サービス窓口)
電子メール	cns-request@sfc.keio.ac.jp
URL	http://itc.sfc.keio.ac.jp/
内線	52512
外線	0466-49-3423
CNS/ERNS サービス窓口受付時間	9:15 ~ 17:00
	土曜日・日曜日・祝日・慶應義塾の定める休日は休業

CNS に関する連絡事項や、CNS の技術的な資料を ITC の Web ページ (<http://itc.sfc.keio.ac.jp/>) に掲載しています。

メディアセンター 1 階にある CNS/ERNS サービス窓口は、CNS と大学院のネットワークである ERNS の総合サービス窓口であり、ITC が運営しています。メーリングリストの登録、パスワードの再設定、サイトライセンスソフトウェアの利用などの各種申請を受け付けています。CNS/ERNS サービス窓口の受け付け時間は表 2.1 の通りです。

CNS を利用している際、機器などにトラブルが発生した場合は、ITC に連絡してください。CNS に関する要望は CNS/ERNS サービス窓口か、電子メールで受け付けています。

2.2 学生によるサポート組織

SFC では学生生活をサポートするため、学生によるサポート組織が存在します。何かわからないことがある場合はそれぞれのコンサルタントに相談しましょう。

2.2.1 CNS コンサルタント

CNS や個人所有 PC に関してわからないことがある場合、CNS コンサルタントに相談できます。また、ノート PC などの機器貸出サービスも CNS コンサルタントが行っています。機器貸出サービスについては「CNS コンサルタントによる機器貸出」(p.6) を参照してください。

表 2.2 CNS コンサルタントについて

場所	メディアセンター 1 階 CNS コンサルタントブース
電子メール	cns-consultant@sfc.keio.ac.jp
URL	http://cnscon.sfc.keio.ac.jp/
内線	52519
外線	0466-49-3425
利用可能時間	月～金 9:20～22:30 土曜日・日曜日・祝日・慶應義塾の定める休日は休業 長期休業中については上記の URL を参照

2.2.2 AV コンサルタント

メディアセンターでは、DV デッキなどの AV 機器が利用できます。また、ビデオ撮影や音声のレコーディング、編集などの設備を整えた地下スタジオも設けられています。また、メディアセンター 1 階の AV コンサルタントブースでは、それらの機器に関するサポートや、AV 機器の貸し出しを行っています。

詳細は、AV コンサルタントの Web ページ (<http://www.sfc.keio.ac.jp/mchtml/AVconsultant/>)、メディアセンター AV サービスのページ (<http://www.sfc.keio.ac.jp/mchtml/avhtml/>) を参照してください。

2.2.3 DB コンサルタント

メディアセンターでは文献情報、新聞・雑誌、辞書・辞典、統計数値のデータベースから情報を検索できます。DB コンサルタントではそれらのデータベースの有効な利用方法のレクチャー、文献情報や統計データベースの利用サポートを行っています。

詳細は DB コンサルタントのページ (<http://www.sfc.keio.ac.jp/mchtml/DBconsultant/>) を参照してください。

2.2.4 看護ファクトタム

看護ファクトタムは看護医療学部コンピュータ環境やネットワーク、マルチメディアシステムの利用に関して学生のサポートを行っている団体です。コンピュータやプリンタのトラブル、マルチメディアシステムの利用方法などについての質問や相談をメールでも直接カウンターでも受け付けます。カウンターでは月曜日から金曜日まで質問を受け付けていますが、カウンターにいない時間もありますので事前に Web を参照して利用時間を調べてください。

表 2.3 看護ファクトタムについて

場所	看護医療学部メディアセンター内カウンター
電子メール	fact-support@sfc.keio.ac.jp
URL	http://nmcfact.sfc.keio.ac.jp/
内線	55250

2.2.5 PC@SFC

PC@SFC は、主に個人所有 PC のサポートを行っている団体です。各学期のノート PC 共同購入のサポートや講習会などを行っています。また、PC@SFC のページ (<http://pc.sfc.keio.ac.jp/info/>) では、セキュリティなどに関する最新情報、各種ソフトウェアの個人所有 PC へのインストール方法などを掲載しています。質問などは電子メールで受け付けています。

表 2.4 PC@SFC について

電子メール	pc@sfc.keio.ac.jp
URL	http://pc.sfc.keio.ac.jp/

3 CNS アカウント

CNS では学生や教職員、卒業生など多くの方がコンピュータを利用します。コンピュータの利用者を“ユーザ”といいます。コンピュータを利用できる権利を“アカウント”といいます。CNS のユーザは、CNS を利用するためのアカウントを持っています。CNS を利用するためのアカウントは、‘SFC-CNS 利用内規’ (p.65) に基づいて発行されます。また、通信教育課程と外国語学校を除く慶應義塾大学の他キャンパスの学生は、サブアカウントの発行を申請できます。詳しくは ITC の他地区学生向けページ (<http://itc.sfc.keio.ac.jp/subaccount/>) を参照してください。

3.1 ログイン名とパスワード

“ログイン名”は、各ユーザに対して固有に割り振られる名前です。コンピュータを利用する際に用います。学部生のログイン名は t00000tf のように表し、はじめのアルファベットが学部、次の 2 桁の数字が入学年度、その後ろの 3 桁が学籍番号から計算された値、最後のアルファベット 2 文字が氏名のイニシャルとして作られています。ログイン名は転部をしない限り変わりません。教職員と大学院生はすでに存在しているログイン名と重複しない限り、アカウント作成時に好きなログイン名を希望できます。

パスワードは、銀行のキャッシュカードの暗証番号のように、ユーザが本当にそのログイン名の持ち主であるかを確認するために用いられます。そのためパスワードは決して他人に知られてはいけません。

CNS では“CNS パスワード”、“IMAP パスワード”という 2 つのパスワードを用います。

3.1.1 パスワードに関する注意

パスワードが他人に知られた場合、不正にログインされ自分のファイルを消去・変更されたりするだけでなく、CNS のシステム全体に対する破壊へとつながる危険性があります。また、悪意のある者がパスワードを盗まれたユーザの持つ権限や責任のもとに不法行為を働く恐れがあります。このような事態は不正使用された本人だけの問題ではなく、慶應義塾への不信感を招くことになりかねませんので注意してください。また、漏洩を防ぐため、パスワードを絶対に書き留めたり、人に教えたりしないでください。

他人がパスワード入力をしている時は覗き見ないのがマナーです。教職員やメディアセンターのコンサルタントなどが CNS のパスワードを尋ねるようなことは絶対にありません。おかしいと思ったときはパスワードをすぐに変更してください。また、他人がその人のアカウントで作業してほしいという理由でパスワードを教えようとしてきた場合でも断わってください。

パスワードは、推測や解析されにくいよう、英小文字、大文字、記号、数字を組み合わせてください。次に示すようなパスワードは他人に簡単に推測されてしまうので用いないください。

- 自分、家族、恋人、ペット、有名人などの名前
- 誕生日、住所、地名、電話番号
- 辞書に載っている単語をそのまま使っているもの
- aaa など同じ文字を繰り返しているもの
- 英小文字、数字だけを使っているもの

3.1.2 CNS パスワード

CNS パスワードは、コンピュータにログインする時など、CNS のサービスを利用する際に広く使われます。CNS パスワードは次のルールの中でユーザが自由に設定できます。

- 英数字と記号で構成される
- 6 文字以上 8 文字以下で構成される
- はじめの 6 文字以内にアルファベットを 2 文字以上含む
- はじめの 6 文字以内に数字もしくは特殊文字を 1 文字以上含む

なるべく長いパスワードが推奨されますが、CNS パスワードは 8 文字より長い部分が切り捨てられてしまうため、8 文字のパスワードが推奨されます。

CNS パスワードの変更

CNS パスワードは、UNIX のコンピュータで変更できます。リモートログインできるサーバにログインするか特別教室の UNIX のコンピュータで、次のように `yppasswd` コマンドで変更してください。

実行例

```
% yppasswd <ENTER>
yppasswd: Changing password for t00000tf
Enter login(NIS) password: (古いパスワード) <ENTER>
New password: (新しいパスワード) <ENTER>
Re-enter new password: (新しいパスワード) <ENTER>
NIS passwd/attributes changed on ns0
% -
```

新しいパスワードは、確認のため 2 回入力する必要があります。

CNS パスワードの有効期限

CNS パスワードには安全のために 3 か月の有効期限があります。3 か月以上変更しないと無効になり、CNS パスワードを使うサービスが利用できなくなります。無効になる前にこまめに変更する必要があります。

もし無効になってしまった場合は、ITC (p.10) の CNS/ERNS サービス窓口に行き、学生証を提示すると仮のパスワードが発行されます。仮のパスワードでログインしたあとは、速やかにパスワードを変更してください。

3.1.3 IMAP パスワード

IMAP パスワードは IMAP を利用して電子メールを読む際にのみ用います。電子メールについての詳細は、電子メールの部を参照してください。IMAP パスワードは次に示すように `mailsetup` コマンドで設定できます。また、`mailsetup` を利用すると、IMAP 環境の設定も同時に行われます。

IMAP パスワードの設定

UNIX のコンピュータにログインし、`mailsetup` コマンドを実行します。利用する言語を問われますので、日本語 (j) か英語 (e) を選択します。次の実行例では日本語を選択しています。

実行例

```
% mailsetup <ENTER>
-----
[Mail environment setup: Language Setting]
-----
Please choose language
  j: Japanese (EUC-JP)
  e: English
  q: Quit
-----
If you can't read Japanese messages described below (by "MOZIBAKE"),
you have to use English mode or set your terminal to EUC-JP mode.
-----
利用する言語を選択して下さい。
  j: 日本語 (EUC-JP)
  e: 英語
  q: 終了
-----
Please type "j", "e" or "q" key and Enter> j <ENTER>
```

CNS パスワードを問われるので入力します。

実行例

```
-----
メール環境設定を行なうため、CNS のメールサーバに ssh ログインしています。
しばらくお待ち下さい。

次の行で、「CNS ログイン用パスワード」の入力を要求される場合があります。
-----
t00000tf@mail.sfc.keio.ac.jp's password: (CNSパスワード) <ENTER>
```

メインメニューが表示されますので、`i<ENTER>` と入力し、「IMAP サービス用にメール環境設定を行う」を選択します。

実行例

```
-----
[メール環境設定: メインメニュー]
-----
```

コマンド:

- 1: メール転送設定を行う
- 2: メール受信用 APOP パスワードを設定/変更する
- 3: メール送受信 IMAP パスワードを設定/変更する
- q: 終了

コマンドと Enter キーを入力してください> 3 <ENTER>

CNS パスワードを再度入力します。CNS パスワードを正しく入力した場合、IMAP 用パスワードを設定できます。IMAP パスワードは CNS ログインパスワードとは別のものを設定します。

実行例

```
-----
[IMAP 利用設定]
-----
```

Step 1: 設定ファイルのチェック中です...

```
-----
```

.folders ファイルに IMAP フォルダ用設定を追加しました。

Step 2: メール送受信 IMAP パスワードを設定します

```
-----
```

t00000tf の CNS ログインパスワードを入力: (CNSパスワード) <ENTER>
 新しい IMAP パスワードを入力: (IMAPパスワード) <ENTER>
 確認のため、もう一度新しい IMAP パスワードを入力:
 (IMAPパスワードを再度入力) <ENTER>

次のように表示されれば IMAP パスワードと IMAP 環境の設定は完了します。<ENTER>を入力してメインメニューに戻り、さらに q<ENTER>を入力して mailsetup コマンドを終了してください。

実行例

```
-----
```

IMAP パスワードの変更に成功しました @ns0.sfc.keio.ac.jp
 Enter キーを入力してください.

3.2 ログイン・ログアウト

アカウントを使ってコンピュータの利用を開始することを UNIX と Mac OS では“ログイン”，Windows では“ログオン”といいます。同様にコンピュータの利用を終了することを UNIX，Mac OS では“ログアウト”，Windows では“ログオフ”といいます。CNS にはさまざまなコンピュータがあり，ログイン，ログアウトの方法もさまざまです。

3.2.1 UNIX のログイン

CNS では $\kappa 18$ ， $\epsilon 17$ ， $\iota 18$ ， $o 17$ 特別教室を UNIX が利用できます。次に UNIX にログインする手順を示します。

ログイン画面の表示

図 3.1 のような UNIX のログイン画面が表示されていることを確認します。特別教室のコンピュータでは，Windows のコンピュータと UNIX のコンピュータでディスプレイを共有しているため，Windows のログオン画面が表示されている場合があります。Windows のログオン画面が表示されている場合は，CPU 切替器 (図 3.2) の左側にある 1 のボタンを押すか，<CTRL>を続けて 2 回押して画面を切り替えます。この時，画面の表示に数秒ほど時間がかかることがあります。また画面が暗い場合，マウスを動かすか，キーボードのどれかのキーを押すと省電力モードから復帰します。

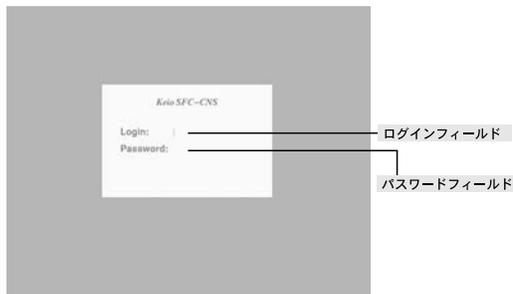


図 3.1 UNIX のログイン画面



図 3.2 CPU 切替器

入力する

カーソルが‘Password:’の後にあるときは，<ENTER>か<TAB>を押して‘Login:’の後へカーソルを移動します。ログイン名を入力し，<ENTER>か<TAB>を押します。‘Password:’の後にカーソルが移り，パスワードを入力できる状態になります。パスワードは他人に知られないように，入力してもログイン画面には何も表示されません。画面で入力の確認はできないので，慎重に入力してください。

ユーザ認証

パスワードを入力し<ENTER>を押すと、ユーザの認証が行われます。認証に成功するとコンピュータを利用できます。

ログイン名やパスワードの入力に間違いがあると認証に失敗するため、ログイン名の入力からやり直します。間違えた場合は、<BS>を押すと1文字消去、C-uを押すと全文字消去できます。Caps Lockが有効になっていたり、<SHIFT>が押されていると、パスワードが大文字で入力されるので入力前に確認してください。

何度入力し直してもログインできない場合、入力モードが違うか、パスワードを覚え間違えている可能性があります。正しいパスワードを思い出せないときは、学生証を持ってITC (p.10)のCNS/ERNS サービス窓口に行ってください。また、マウスやキーボードを操作してもディスプレイが暗いままであれば、ディスプレイの電源が入っているか確認してください。まったく反応がない場合は、ITC (p.10) もしくは CNS コンサルタント (p.11) に連絡してください。

3.2.2 UNIX コンピュータのログアウト

UNIX でログアウトをするには、GNOME パネル (下)(図 3.3) のメインメニュー、もしくは GNOME パネル (上)(図 3.3) の [デスクトップ] から [ログアウト] を選択します。‘本当にログアウトしますか?’ と聞かれるので、[はい] を選択します。

また、CONSOLE ウィンドウ (コンソールウィンドウ) で `logout` か `exit` を入力してもログアウトできます。ログアウトに成功した場合には、画面が切り替わりログイン画面 (図 3.1) が表示されます。

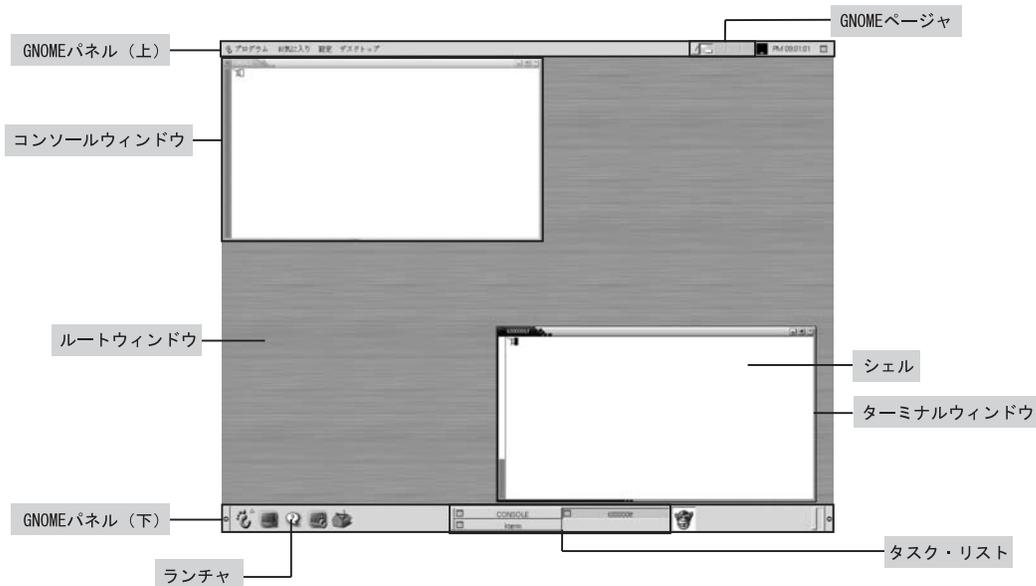


図 3.3 GNOME ウィンドウ

3.2.3 Windows のログオン

Windows では、利用を開始することをログインではなくログオンとよびます。次に Windows にログオンする手順を示します。

- (1) 図 3.4 のような Windows のログオン画面が表示されていることを確認します。特別教室で UNIX のログイン画面が表示されている場合は、CPU 切替器 (図 3.2) の右側の 2 のボタンを押すか、<CTRL>を続けて 2 回押して画面を切り替えます。
- (2) ‘ユーザ名’ 欄にログイン名を、‘パスワード’ 欄に CNS パスワードを入力します。
- (3) [OK] を押します。



図 3.4 Windows のログオンウィンドウ

3.2.4 Windows コンピュータのログオフ

Windows では、利用を終了することを、ログアウトではなくログオフとよびます。次に Windows コンピュータをログオフする手順を示します。

- (1) 画面左下の [スタート] を押します。
- (2) スタートメニューが表示されるので、[ログオフ (L)] を押します。
- (3) 図 3.5 のようなウィンドウが表示されるので、[ログオフ (L)] を選択します。

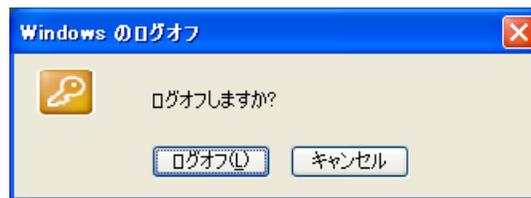


図 3.5 Windows のログオフウィンドウ

3.2.5 Mac OS のログイン

次に Mac OS のコンピュータにログインする手順を示します。

- (1) Mac OS のログインウィンドウ (図 3.6) が表示されていることを確認する。ディスプレイが暗い場合は、ディスプレイが省電力モードになっているので、マウスを動かして省電力モードから復帰する。
- (2) ‘名前’ 欄にログイン名を、‘パスワード’ 欄に CNS パスワードを入力する。
- (3) 右下に表示されている [ログイン] ボタンを押す。



図 3.6 ログインウィンドウ

3.2.6 Mac OS のログアウト

次に Mac OS のコンピュータからログアウトする手順を示します。

- (1) 画面左上のアップルメニューを押し、メニューリスト (図 3.7) を表示する。
- (2) アプリケーションが起動していないことを確認し、[ログアウト] を選択する。作業中のファイルを保存していないアプリケーションがあった場合は、保存のためのダイアログが表示される。



図 3.7 アップルメニュー

4 印刷

CNS では、特別教室とメディアセンターに、ユーザが利用できるプリンタを用意しています。各プリンタに表示されているプリンタ名が nps?? であるものがモノクロプリンタ、color? であるものがカラープリンタです。プリンタの設置場所は巻頭の教室配置図を参照してください。

これらのプリンタは、CNS に設置されているコンピュータから直接利用できます。個人所有 PC から、いったん CNS に設置されているコンピュータか、リモートログインできるサーバを経由して利用できます。ここでは CNS の印刷サービスの概要について説明します。

4.1 印刷料金について

CNS では、ユーザごとに印刷枚数を記録しています。この記録に基づいて、学年度末に年間の印刷料金が請求されます。

モノクロプリンタ (プリンタ名 nps??) を利用した場合、500 枚までは課金されません。500 枚を超えた分に対しては 1 枚 5 円が課金されます。カラープリンタ (プリンタ名 color?) を利用した場合は、1 枚目から 1 枚 30 円が課金されます。なおカラープリンタの使用において、原稿がモノクロであってもミスプリントであっても、1 枚 30 円が課金されるので注意してください。

支払い対象者は年明けに 館の掲示板にログイン名が張り出されます。該当者は CNS/ERNS 窓口で、ITC 職員の指示にしたがって証紙を購入し、事務室窓口で支払います。また、超過料金を支払わない場合はアカウントが停止されるので注意してください。

4.2 プリンタの利用通知

CNS のプリンタを使用すると、翌日に利用の通知が CNS のメールアドレス宛に届きます。次に 2005 年 4 月 4 日に nps12 でモノクロ 103 枚、color1 でカラーを 10 枚出力した場合の例を示します。このメールは 2005 年 4 月 5 日に届きます。

```
From: CNS-STAFF
Subject: Yesterday's CNS Printer Log
--
藤沢 太郎 様
2005-04-04 印刷分の CNS printer 利用状況をお知らせします。

    nps12 (103 枚)   color1 (10 枚)

年間総合計は、printer-acct コマンドで確認して下さい。
--
```

プリンタの出力について不明点があれば、メールが届いてから1週間以内に CNS/ERNS サービス窓口へ直接問い合わせてください。

4.3 年間印刷枚数の確認

年間での印刷枚数の合計を確認するには、UNIX のコンピュータへログインし、printer-acct コマンドを実行します。印刷枚数は、印刷した直後ではなく、午前0時頃に再計算されます。

実行例

```
% printer-acct <ENTER>
===== check_printer_account =====
login name : t00000tf , name : 藤沢 太郎
at present of Mon Apr 5 0:05:09 2005

      SERNO      NAME      nps1  nps2  nps3  nps4  nps10  nps13  nps14  Total
      4181 t00000tf      7    17   158   343   205    19    87    836

at present of Mon Apr 5 0:05:09 2005

      ColorPrinter      color1  Total
                        4          4

% -
```

この例では、836枚のモノクロ印刷、4枚のカラー印刷をしています。この場合、請求金額はモノクロ印刷が $5 \times (836 - 500) = 1,680$ 円、カラー印刷が $4 \times 30 = 120$ 円となり、合計1,800円の利用料金を学年末に支払わなければならないことになります。

4.4 印刷サービス利用上の注意

プリンタに用紙がない場合は CNS コンサルタント (p.11) または ITC (p.10) に連絡し、用紙の補充を待ってください。紙詰まりやプリンタの故障の原因となりますので、個人の紙などをむやみに補充しないでください。プリンタの調子がおかしい場合も、自分で対処しようとせず CNS コンサルタントまたは ITC に連絡してください。

5 CNS の記憶メディア

CNS には、CNS のどのコンピュータからも共通して利用できる、データの記憶領域があります。個人のデータは単一のコンピュータではなく、ネットワーク経由で CNS のファイルサーバに保存されますので、CNS のどのコンピュータを利用しても同様にファイルやディレクトリを操作できます。これらのファイルは個人所有 PC からも、リモートログインできるサーバを通して参照できます。

また、直接利用する CNS のコンピュータには、CD-ROM ドライブなどの外部記憶装置が用意されています。CNS のユーザは自分で持ち込んだ CD-ROM などの外部記憶メディアも利用できます。

5.1 ホームディレクトリ

ホームディレクトリは、ユーザ個人の作業領域です。1GByte、100000 ファイルまで情報を記憶できます。CNS の UNIX からは /home/(ログイン名)/、Windows からは Z ドライブ、Mac OS からは HOME フォルダとして利用できます。

初期の設定では、一部の特殊なディレクトリを除き、他のユーザから閲覧できる状態になっています。他人に見られたくないファイルには保護モード (`unix-permission`) を設定する必要があります。

5.1.1 現在の使用量の確認

ホームディレクトリの使用量を確認するには、UNIX で `quota` コマンドを使用します。

実行例

```
% quota -v <ENTER>
Disk quotas for t00000tf (uid 29000):
Filesystem  usage  quota  limit  grace  files  quota  limit  grace
/a/fs0601a 1136883*1024000 1536000 6.0days 12100 100000 150000
```

ファイル空間の使用量は KByte で表されています。この例では、ファイルの使用制限 (quota) が、1024000KByte (1GByte)、100000 ファイルまでとされているのに対して、実際には、1136883 KByte (約 1.1GByte)、12100 ファイルを使用しています。そのため後 6 日以内にファイル使用量を 1GByte 以下に減らすよう警告 (*) が表示されています。

自分のディレクトリを、他のユーザからも書き込みを許可するような保護モードに設定することができます。自分が他のユーザのディレクトリにファイルを作成する場合、CNS では 100KByte

しかファイル空間を使用できません。その場合、たとえ自分のホームディレクトリ以下が使用量制限に達していなくても、‘disk quota exceeded’ というエラーメッセージが表示されます。

5.1.2 特殊なディレクトリ

ホームディレクトリの中には、いくつか特殊なディレクトリが存在します。たとえば CNS の Windows のマイドキュメントに配置したファイルは、XPDataCNS 以下の MyDocuments に保存されます。

表 5.1 に、主な特殊ディレクトリを挙げます。他にも、で始まる特殊なファイルがありますが、これらのファイルやディレクトリはむやみに削除してはいけません。

表 5.1 主な特殊ディレクトリ

ディレクトリ名	内容
XAppCNS	CNS の Windows で使用するアプリケーションの設定を保存
XPDataCNS	CNS の Windows で使用するデータを保存
CNSMac	g4mac??で使用するアプリケーションの設定とデータを保存
CNSMCMac	mcmac??で使用するアプリケーションの設定とデータを保存
Maildir	個人の電子メール (IMAP) データを保存
public_html	個人の Web 公開スペース

5.1.3 自分の Web ページを公開する

CNS では、個人の作成した Web ページを WWW に公開できます。作成したページは CNS の Web サーバを通じて、世界中どこからでもアクセスできます。

公開される対象は、個人のホームディレクトリにある public_html という特殊なディレクトリ以下です。たとえば t00000tf のホームディレクトリ/home/t00000tf/public_html/内に置かれた index.html というファイルは、Web ブラウザで <http://web.sfc.keio.ac.jp/~t00000tf/index.html> からアクセスできます。

Web ページの公開にあたっては、内容に十分注意を払ってください。Web ページなどのコンテンツの公開時の注意事項については‘コンテンツの作成と利用’ (p.32) を参照してください。

5.2 メディアサーバ

“メディアサーバ” は容量の大きなファイルを一時的に保存するためのファイルサーバで、全体で 3.5TByte (テラバイト) の記憶領域があります。CNS の UNIX からは/home/archives/ (ログイン名)/、Windows からは Y ドライブ、Mac OS からは ARCHIVE フォルダとして利用できます。

メディアサーバはホームディレクトリのようにユーザのディスク容量制限を設定していないので、動画ファイルのようなファイル容量の大きいファイルの一時的な保存に利用します。ただし、使用容量が多いユーザへは注意を促すメールが自動的に送信されます。

メディアサーバの限りある資源を有効に利用するため、メディアサーバに保存されたファイルのうち、30 日間以上アクセスされなかったファイルは自動的に削除されます。1 週間前に削除対象ファイルを有するユーザに電子メールが送信されますので、必要なファイルは削除される前に、別の記憶メディアに移動するなどの措置を行ってください。

メディアサーバは、ホームディレクトリと異なり、ITC はデータのバックアップを行っていません。メディアサーバにファイルを置くのは一時的なものとし、ユーザ個人でのバックアップを心がけましょう。

5.3 共用作業領域

共用作業領域は、公共性の高いファイルを保存する記憶領域です。CNS の UNIX からは/pub/にあたりますが、Windows や Mac OS から直接の参照はできません。

授業などで多くのユーザが同じファイルを使用する場合や、研究室や団体にファイルを共有する場合に利用されます。また、研究室や団体の Web ページを CNS で公開する場合、/pub/www/の下に Web ページ用のディレクトリが作成されます。例えば、情報技術科目の Web ページ (<http://ipl.sfc.keio.ac.jp/>) は/pub/www/ipl/に実体があります。

5.4 外部記憶メディア

CNS の Windows コンピュータと Mac OS コンピュータには CD-ROM や DVD-ROM などのドライブが用意されており，ユーザが用意した記憶メディアを利用できます．表 5.2 に，コンピュータと利用可能な記憶メディアの対応を示します．

表 5.2 CNS のコンピュータと利用可能な記憶メディア

ホスト名	設置場所	フロッピー	CD-ROM	CD-R/RW	DVD-ROM	DVD-R
zxp???	κ18			-	-	-
	ε17			-	-	-
	ι18			-	-	-
	ο17			-	-	-
ixp???	λ11			-	-	-
g4mac??	λ21	-				
ispc???	λ18					
	メディアセンター					
mcsupc??	メディアセンター					
mcsvpc??	メディアセンター					
mcmac??	メディアセンター	-				
ホスト名	設置場所	DVD+R	DVD ± RW	DVD-RAM	各種カード	
zxp???	κ18	-	-	-	-	
	ε17	-	-	-	-	
	ι18	-	-	-	-	
	ο17	-	-	-	-	
ixp???	λ11	-	-	-	-	
g4mac??	λ21	-	-	2	-	
ispc???	λ18	-	-	-	-	
	メディアセンター	-	-	-	-	
mcsupc??	メディアセンター				-	
mcsvpc??	メディアセンター				1	
mcmac??	メディアセンター	-	-	-	-	

1 コンパクトフラッシュ，マイクロドライブ，スマートメディア，メモリースティック，メモリースティック PRO，SD メモリーカード，マルチメディアカード，miniSD カード，メモリースティック Duo，メモリースティック PRO Duo に対応

2 3 台のコンピュータに外付け DVD-RAM ドライブを装備

6 ネットワーク環境に関する注意

ここでは、ネットワーク環境でコンピュータを利用するにあたって、コンピュータや自分自身の安全を守るために必要な知識について説明します。コンピュータを CNS などのネットワークに接続した場合、コンピュータとそれを利用するユーザは世界中とつながりをもつこととなります。正しい知識を身につけてネットワークを利用しましょう。

6.1 セキュリティホール

セキュリティホールとは、Windows, Mac OS, UNIX などの OS やアプリケーションの欠陥のうち、本来できてはいけない操作ができてしまう、見えてはいけない情報が見えてしまうなど、第三者が悪用しうるものをいいます。セキュリティホールが存在したまま放置すると、コンピュータウイルス (p.28) の感染源となったり、攻撃を受けたりすることがあります。セキュリティホールが見つかった場合、通常は OS やアプリケーションの製造元、開発元から、“パッチ” とよばれる対策プログラムが公開されます。また、セキュリティホール対策を行なった新しいバージョンのアプリケーションが公開されることもあります。

自分の使用している OS やアプリケーションのセキュリティホールに関する情報はこまめにチェックし、パッチの適用や新バージョンのインストールを行ない、セキュリティホールのない状態を維持する必要があります。主な OS のセキュリティ情報の Web ページを表 6.1 に示します。

表 6.1 OS のセキュリティ情報が掲載される Web ページ

OS	URL
Windows	http://www.microsoft.com/japan/security/
Mac OS	http://www.apple.co.jp/support/
FreeBSD	http://www.freebsd.org/ja/security/
Linux	http://www.linux.or.jp/security/

各 OS やアプリケーションのセキュリティ上の問題についての情報収集、分析、再発防止策の検討などを行っている団体もあります。これらの団体についての詳細は表 6.2 の URL を参照してください。

また、PC@SFC の Web ページ (<http://pc.sfc.keio.ac.jp/>) では、個人所有 PC でよく使用される OS やアプリケーションのセキュリティ情報を、「最新情報」に掲載しています。

表 6.2 セキュリティに関する活動を行っている団体

団体	URL
CERT	http://www.cert.org/
JPCERT	http://www.jpCERT.or.jp/
IPA セキュリティセンター	http://www.ipa.go.jp/security/

6.2 コンピュータウイルス

6.2.1 コンピュータウイルスとは

コンピュータウイルスとは、不特定多数のコンピュータに意図的に被害をもたらすように作られたプログラムです。自己増殖機能とよばれる機能を持ち、コンピュータからコンピュータへ自分のコピーをつくり、次々に被害を与えていく様子が現実にある病原体のウイルスに似ているため、コンピュータウイルスといえます。コンピュータウイルスがコンピュータに侵入することを、同じように“感染”といえます。

コンピュータウイルスに感染すると、自分だけでなく他人にも迷惑をかける可能性があります。また、最近のコンピュータウイルスは、ネットワークを通じて他のコンピュータに感染を広げようとするため、ネットワークにも負荷をかけます。CNSに限らず、ネットワーク環境を利用する際には、コンピュータウイルスに対する知識が必要です。とくにCNS環境は、たくさんのユーザが同時にコンピュータを利用していることもあり、ウイルスが広まりやすい傾向にあります。コンピュータウイルス対策はしっかりと行なう必要があります。

また、CNSでコンピュータウイルスが流行する場合、個人所有PCから個人所有PCに感染していく例がほとんどです。個人所有PCはITCによる管理ができませんので、ユーザ個人の責任でコンピュータウイルス対策を心がけましょう。

6.2.2 感染の原因

コンピュータウイルスはWindows、Mac OS、UNIXなどのOSや、Internet Explorer、Outlook Expressなどのセキュリティホール(p.27)を悪用して感染活動を行ないます。また、コンピュータのユーザに巧みにウイルスプログラムを実行させるように仕向けたり、また最近では電子メールを介して感染を広げるものもあります。たとえば、2004年に流行したNetskyというウイルスは、感染するとコンピュータ内部からメールアドレスを自動的に収集し、ウイルスを添付したメールを勝手に送信します。ウイルスが添付されたメールを開いただけでも感染してしまうため、被害が広がりました。

6.2.3 コンピュータウイルスの予防

セキュリティホールをふさぐことで、多くのウイルスを予防できます。Windows Update(p.59)などの操作を行ったり、使用しているアプリケーションのセキュリティ情報をこまめにチェッ

クして、セキュリティホールのないよう心がける必要があります。また、電子メールや Web ページ、他人からもらった CD-ROM などに不審なプログラムがあったら、不用意に実行しないようにしましょう。

また、ウイルス対策ソフトウェアを導入する方法もあります。ウイルス対策ソフトウェアとは、“ワクチンソフト”ともいい、コンピュータウイルスの感染や実行を未然に防いだり、万一感染してしまった場合に駆除するソフトウェアです。Windows 用や Mac OS 用のものが多く市販されています。自分の手でコンピュータウイルスを予防できるか不安な人は、なるべくウイルス対策ソフトウェアを導入してください。代表的なウイルス対策ソフトウェアを表 6.3 に示します。

ウイルス対策ソフトウェアは“ウイルス定義ファイル”を使います。なお、ウイルス定義ファイルはウイルス対策ソフトウェアによっては“パターンファイル”などとも表記される場合があります。導入する場合は、ウイルス定義ファイルを定期的に更新してください。ウイルス定義ファイルはウイルスの指名手配書のようなもので、新種のウイルスが発見されると更新されます。ウイルス定義ファイルが古いままだと、ウイルス対策ソフトウェアを導入していても、新種のウイルスには対応できなくなってしまいます。ウイルス定義ファイルはオンラインでも更新できるようになっていますので、取扱説明書を読み、定期的に更新する必要があります。

表 6.3 代表的なウイルス対策ソフトウェア

製品名	製造元	Web ページ
ウイルスバスター	トレンドマイクロ	http://www.trendmicro.co.jp/
Norton AntiVirus	シマンテック	http://www.symantec.co.jp/
VirusScan	マカフィー	http://www.mcafee.com/jp/

6.2.4 ウイルス感染の対処

万一ウイルスに感染した場合は、ネットワークを通じて感染が拡大するおそれがあるため、すぐに LAN ケーブルを抜いたり、無線 LAN の接続を切るなどし、ネットワークから切り離してください。その後、表 6.3 などに掲載されている情報を参考にして、ウイルスの種類を特定し、ウイルスの除去を行ってください。PC@SFC のページ (<http://pc.sfc.keio.ac.jp/>) では、大流行しているウイルスについては対策も含めて掲載しますので、参考にしてください。ウイルス対策ソフトウェアを導入している場合は、コンピュータの全体を検査することで除去できます。

もし、自力で解決できない場合は CNS コンサルタント (p.11) へ相談してください。また、コンピュータウイルスに感染したまま CNS に接続をしていると、安全のために ITC によって CNS への接続を制限される場合があります。CNS への接続の制限を解除するには、ウイルスに感染していたコンピュータを持参し、ITC (p.10) の CNS/ERNS サービス窓口で相談してください。

6.3 スпамメール

営利目的、愉快目的などで不特定多数のメールアドレスに送信される電子メールを“スパムメール”とよびます。スパムメールは迷惑だけでなく、対応を誤ると金銭的な被害を受けたり、他の人にも迷惑をかけてしまうことがあるので気をつける必要があります。メールマガジンなど、自分で登録したものでなければ無視するのがよいでしょう。スパムメールは発信者のメールアドレスを偽っていることが多く、苦情のメールなどを返信しても無関係の他人に送られてしまうことがあります。また、メールに書いてある URL をみだりに開かないようにしましょう。

スパムメールにはいくつかの種類がありますので次に示します。

6.3.1 営利目的の電子メール

商品やサービスを購入するよう促す内容の電子メールで、外国語で書かれていることも多くあります。これらの業者が販売している商品やサービスは、違法性があったり、不当に高価だったりすることもあるので、これらの電子メールは無視するのが賢明です。また、以後メールの受信を希望しない場合は購読解除用の URL を開いたり、電子メールを返信するよう指示しているものがあります。しかし、これらの指示に従うと、きちんとメールが読まれているメールアドレスだと情報を送信者に与えてしまうことになり、かえってスパムメールが増えてしまう可能性もあるので気をつけましょう。

次に営利目的の電子メールの例を示します。

- 医薬品の個人輸入の案内
- 違法コピーソフトウェアの販売
- アダルト Web ページの案内

6.3.2 詐欺目的の電子メール

金銭や個人情報を詐取するのが目的の電子メールです。発信元や電子メールの内容などを巧みに偽装して他人や有名企業を装ったり、うまい話を持ちかけて金銭を詐取するパターンが多くあります。次に詐欺目的の電子メールの例を示します。

- 本物そっくりの偽 Web ページや偽メールを使って有名企業やクレジットカード会社を偽り、パスワードやカード番号を盗む“フィッシング詐欺”
- 架空請求を送付し、指定した口座に金銭を振り込ませる“振り込め詐欺”
- 外国政府高官などを騙り、口座を貸してくれば大金を支払うと言い、金銭を詐取する“ナイジェリア刑法 419 事件”

6.3.3 チェーンメール

知り合いに転送するよう書かれ、不特定多数に広めることを目的としたメールです。たとえもともとは事実だったとしても、転送される間に情報の信頼性は落ちてしまいますし、ネットワー

クに負荷をかける原因となるので、むやみに転送することはやめましょう。次にチェーンメールの例を示します。

- AB 型 Rh-の血液が不足している
- テレビ番組でメールがどこまで届くか実験している
- 犬の里親を急いで探している

6.3.4 ウイルスが発信する電子メール

コンピュータへの感染に成功したウイルスが、そのコンピュータを利用して自動的に送ってくる電子メールです。添付されているファイルを不用意に開くとウイルスに感染してしまうので、気をつける必要があります。また、発信者のメールアドレスは詐称されていることが多いので、発信者がウイルスに感染しているとは限りません。

7 コンテンツの作成と利用

ここでは、ソフトウェアや Web ページなどのコンテンツを利用したり作成したりする際に、著作権などの権利について気をつけなければならないことを説明します。

7.1 コンテンツ利用の原則

著作物とは思想、または感情を創作的に表現したものです。たとえば、文章、音楽、絵画、プログラムなどが該当します。CD やパッケージソフトウェアといった形で流通しているものだけが著作物ではありません。Web ページ上のコンテンツや、授業のレポートなども著作物であり、誰かが著作権をもっています。

著作権とは、著作権をもつ人の許可しないところで、著作物が勝手に使用されたり、改変されたり、コピーされたりしないように著作物を守る権利です。レポートを書いたり Web ページを作成したりする際は、参考したり利用したりする資料はすべて誰かが著作権を持っていることに注意しましょう。

形のないものを守る権利は著作権だけではなく、肖像権、工業所有権などもありますが、ここでは主に著作権について説明します。

次にあげる例は、著作者の許可がある場合を除いて、著作権を侵害しています。

- インターネット上に公開されている画像をコピーして、自分の Web ページにそれを使用する
- インターネット上に公開されている画像を印刷して、不特定多数の人に配布する
- あたかも自分の書いた文章のように書籍の文章の一部分をレポート中に使用する
- 音楽ファイルを著作者に無断でアップロードする
- 友達がライセンスを購入したソフトウェアを自分のコンピュータにインストールさせてもらう

一方、次のような例は著作者の許可がない場合でも正当な行為です。

- 授業で配るために必要な限度で書籍などをコピーする (教材としての利用)
- 正しく引用する ('引用' の項を参照)
- 著作権の発生しないものを利用する ('著作権の発生しないもの' の項を参照)
- オープンコンテンツを利用する ('オープンコンテンツの利用' の項を参照)

7.2 Web ページやレポートなどの作成

すべての著作物は、原則として著作者の許可なく利用できません。ただし、著作者の許可なしに利用できる特別な場合もあります。より良い Web ページやレポート、映像作品を作成するために、著作権を侵害しないように気をつけて、著作物を活用しましょう。

ここでは、他人の作成した著作物を正しく活用するための方法を説明します。

7.2.1 引用

他者の著作物は、引用というかたちをとれば許可を取らずに利用できます。引用とは、報道や批評、研究などの目的で他者の著作物の一部を転載することです。例えば、レポート中で他の文献を部分的に参照する場合などがこれにあたります。引用の際は次の条件を満たす必要があります。

- 出所と著作者名を明記すること
- 本文と引用部分が明らかに区別できること
- 著作物を引用する必然性があること
- 引用の範囲に必然性があること
- 質的量的に引用する部分が‘従’であり、引用先が‘主’であること
- 引用元が公表された著作物であること

7.2.2 著作権の発生しないもの

次に示すものは著作権が発生しないので、自由に利用ができます。

- 時事の報道や短い文章などの、創作性がないもの
- 憲法・法律・政令や官報といった、国・地方自治体・独立行政法人が発するもの

7.2.3 オープンコンテンツ

特にインターネットで流通している著作物では、著作者がある程度の著作権を行使しないで、著作物を共有した状態に置く場合があります。こうした著作物は“オープンコンテンツ”とよばれ、一般的な著作物より自由に利用できます。著作物の自由な利用を許して自分の著作物が広く用いられることをよしとする著作者が、数多くのオープンコンテンツを公開しています。これらはしばしば表 7.1 のような著作物の利用規約を用いて配布されています。オープンコンテンツの著作物の多くは、これらの利用規約の URL が明記されているか、COPYING や COPYRIGHT、readme.txt などのファイル名で著作物に付属し、容易に利用規約を参照できるようになっています。

表 7.1 オープンコンテンツの利用規約の例

利用規約の名前	閲覧できる URL
クリエイティブ・コモンズ・ライセンス	http://www.creativecommons.jp/
GNU 一般公衆利用許諾契約書	http://www.gnu.org/licenses/gpl.ja.html
GNU フリー文書利用許諾契約書	http://www.gnu.org/licenses/fdl.ja.html

これらのオープンコンテンツの著作物を利用する際は、利用規約をよく読んで有効に活用しましょう。また、自分が作成した Web ページやレポートなどの著作物を広く利用してもらいたい場合は、これらの利用規約を適用するのもよい方法です。

7.3 P2P ファイル交換ソフトウェア

現在，WinMX，Winny，Gnutella などの P2P ファイル交換ソフトウェアを通じた，音楽・映像ファイルやソフトウェアの不正な交換が社会問題となっています．P2P ファイル交換ソフトウェアを利用すること自体は違法ではありませんが，これを用いて不正なコピーを行う著作権侵害行為が増加し，問題となっています．

これを受け，慶應義塾 ITC 本部は“P2P ファイル交換ソフトウェアの利用について” (<http://www.itc.keio.ac.jp/p2p/>) という規則を全塾のネットワークに適用しています．P2P ファイル交換ソフトウェアは，慶應義塾では事前申請を行わないと利用できません．CNS で P2P ファイル交換ソフトウェアを利用する場合は必ず ITC (p.10) へ利用申請書を提出してください (http://itc.sfc.keio.ac.jp/announce_close/20030418-p2p.html)．教育・研究目的にのみ利用が許可されます．

以下に，利用申請が必要な P2P ファイル交換ソフトウェアを示します (2005 年 2 月 26 日現在)．最新情報および詳細は <http://www.itc.keio.ac.jp/p2p/> を参照してください．

- Gnutella 及びその互換ソフト
- WinMX 及びその互換ソフト (iShare, Utatane など)
- Winny
- Bit Torrent
- KaZaA
- eDonkey 及びその互換ソフト (OneMX など)

8 授業に関連した CNS の利用

SFC において、コンピュータはレポートなどの課題を作成するだけでなく幅広い目的に利用されています。ここでは電子メールを使ったレポート提出や体育の授業の予約など、授業に関連した CNS の利用方法を説明します。

8.1 レポートシステム

レポートシステムは、Web ページまたは電子メールを利用してレポートを提出できるシステムです。ただし、すべての科目がレポートシステムを提出に用いているとは限りません。レポート提出の際は必ず担当教員の指示にしたがってください。

レポートシステム利用の詳細は、レポートシステム学生向けマニュアル (<https://report.sfc.keio.ac.jp/student/>) を参照してください。

8.1.1 注意事項

レポートシステムでは、提出される課題によって提出方法が異なります。Web ページからの提出と電子メールによる提出に共通する注意事項は次の通りです。また、課題の他の条件にも十分に注意してください。

レポート名

レポートシステムでは、提出するレポートがどの課題に対するものか特定するために、課題ごとに「レポート名」という名前をつけています。レポート名には担当教員から指定されたものを書いてください。レポート名は、担当教員から指示に従うか、館の掲示板、またはレポートシステムの Web ページ (<https://report.sfc.keio.ac.jp/>) の各課題のページを参照してください。

受付期間と締切時刻

レポートシステムでの提出受け付け期間は、担当教員から直接指示が出されるか、館掲示板、またはレポートシステムの Web ページ (<https://report.sfc.keio.ac.jp/>) の各課題のページに掲載されます。受け付け期間以外にレポートを提出した場合、システムはレポートを受理しないので、提出期間を確認した上で必ず期間内に提出してください。時間は 24 時間表記で、05:00:00 であれば午前 5 時を表します。レポートシステムに関する質問は電子メール (report-request@sfc.keio.ac.jp)、または事務室学事担当で受け付けています。

ファイル提出

課題によってはワープロソフトなどで作成したファイルでの提出を受け付ける場合があります。ファイル提出は、Web ページからの提出のみで受け付けます。ファイルを提出する場合は、ファイル形式およびファイル容量の制限に注意してください。提出可能なファイル形式は PostScript, PDF, Excel, Word です。また、ファイル容量の上限は 3MByte です。

8.1.2 Web ページからの提出

Web ページからレポートを提出する方法を説明します。https://report.sfc.keio.ac.jp/(図 8.1) から CNS アカウントでログインし、登録されているレポートシステムの課題を検索し、提出・閲覧できます。



図 8.1 レポートシステムログイン画面

Web ページからの提出の場合、所定の欄にレポートの文章を入力します。ただし、セキュリティの関係上 24 分で接続が切れるので、直接入力するよりあらかじめ作成しておいたレポートをコピー・アンド・ペーストするほうが効率的です。また、レポート画面には必ず学籍番号と氏名を入力してください。作成後、画面下の [提出] ボタンを選択するとレポートが送信されます。提出したレポートがシステムに受理されると、Web ページ上に受理のメッセージが表示されます。レポート名、添付ファイルのファイル名を確認してください。‘正常に受理されました’という旨のメッセージ以外が表示された場合には、間違いを訂正したうえで再度提出してください。受理されたことを確認したら、提出したことの記録とするため、提出したレポート名を指定して、ダウンロードして保存し、内容を閲覧・確認します。

8.1.3 電子メールによる提出

電子メールでレポートを提出するときには、report@sfc.keio.ac.jp に電子メールを送ります。電子メールによる提出では、Web ページからの提出とは異なりファイルは添付できません。また、 \LaTeX 形式で提出できます。

レポート名

電子メールによる提出の場合は、レポート名はメールの件名 (Subject) として入力します。Web ページからの提出の場合と異なり、レポート名をキーボードで打ち込む必要があるため、レポート名を間違えないよう気をつける必要があります。レポート名は、英数字とハイフン「-」を使った文字列で、間にスペースが入っていることはありません。また、「i」(小文字のアイ)、「I」(小文字のエル)、「1」(アラビア数字のいち)、「l」(大文字のアイ) は間違えやすいので注意してください。

本文

電子メールによる提出の場合は、メールの本文にレポートの本文、または \LaTeX のソースを直接書き入れる (貼りつける) ことになります。

レポート本文には、必ず学籍番号と氏名を記載してください。また、1 行は英数字で 75 文字、日本語で 35 文字程度にしてください。改行がなく 1 行が長過ぎると、文字化けが起こることがあります。

電子メールの送信方法

レポートシステムは、電子メールの送信者から提出者を判断します。電子メールでの提出の際には、必ず自分の CNS アカウントからメールを送ってください。レポート提出者の一覧表が担当教員に渡されますが、他人のアカウントからメールを送ると、そのアカウント名を所持している人の名前が載ってしまいます。

提出したレポートがシステムに受理されると、report-master@sfc.keio.ac.jp から受理通知のメールが届きます。このメールは、提出の記録として保管しておいてください。レポートシステムに受理されないと、エラーを通知するメールが届きます。

8.2 その他の授業に関連するシステム

レポートシステム以外にも、CNS では次に示すシステムが利用できます。

SFC-SFS

SFC-SFS とは授業に関わる諸問題を履修者、教員、職員の 3 者が一緒に考え、優れた教育環境・内容を構築することを目指して活用するために作成された授業調査システムです。学生は Web ブラウザから SFC-SFS の Web ページ (<https://vu2.sfc.keio.ac.jp/sfc-sfs/>) を開き、CNS アカウントでログインして操作を行えます。

体育システム

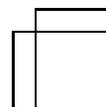
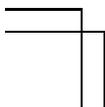
体育およびの授業に出席するには予約が必要です。体育システムは体育の授業予約を行うシステムです。学生は Web ブラウザで体育システムの Web ページ (<https://wellness.sfc.keio.ac.jp/>) を開き、CNS アカウントでログインして体育の授業予約やその取り消しなどを行えます。

慶應義塾大学 学事 Web システム

学事 Web システムは慶應義塾大学の学事に関する申請や情報の確認が行えるシステムです。学生は Web ブラウザから学事 Web システムの Web ページ (<http://gakuji2.adst.keio.ac.jp/>) を開き、学事 Web システムのアカウントでログインして利用できます。学事 Web システムのアカウントは CNS アカウントとは異なり、学籍番号と学生証のケースに印刷されたパスワードを用います。また、学事 Web システムは NTT ドコモ社の i-mode を用いることで、携帯電話などからも利用できます。

第II部

個人所有PC



1 CNS への接続

個人で所有するパーソナルコンピュータ (個人所有 PC) は、ネットワークを経由して CNS へ接続できます。ネットワークに接続することで、メールを読んだりレポートを CNS のプリンタから印刷したりできます。ネットワークに接続するにはさまざまな方法がありますが、ここでは Windows と Mac OS を例に説明します。

1.1 キャンパス内からの接続

キャンパス内でコンピュータを CNS へ接続するためには、有線で接続する方法と、無線で接続する方法があります。

1.1.1 有線 LAN

LAN ケーブルで、随所に設置されているケーブル差し込み口と個人所有のコンピュータを接続して、簡単に CNS へ接続できます。有線 LAN のポートは、各教室に少数設置されていますが、 $\kappa 11$ やメディアセンター 1 階および新オープンエリアには、あらかじめ多くのポートが用意されています。また $\kappa 23$ などのフリーアクセス化された教室では、図 1.1 のような“情報コンセント”が座席数だけ床に埋め込まれています。1 つの情報コンセントには有線 LAN のポートと電源コンセントがそれぞれ 2 つずつ用意されています。



図 1.1 情報コンセント

1.1.2 無線 LAN

“無線 LAN” は、電波を用いてネットワーク接続を行うシステムの総称です。CNS へは、無線 LAN の標準規格の 1 つである‘IEEE 802.11b’を利用し、表 1.1 の通り設定を行うことで接続でき

ます．実際にこれらの設定を行う方法については，コンピュータや無線 LAN カードの取扱説明書を参照するか，Windows の場合は `win-wlan-conf`，Mac OS の場合は `mac-wlan-conf` を参照してください．

無線 LAN で CNS へ接続するためには，無線 LAN 機能が内蔵されたコンピュータを利用するか，内蔵されていない場合は生協などで販売されている無線 LAN カードを使用します．無線 LAN は基地局から電波の届く範囲で利用できます．壁を隔てた場所などの電波が届きにくい場所では利用できない場合もありますが，ほぼキャンパス全体で利用できます．詳しい基地局の場所については巻頭の教室配置図を参照してください．

表 1.1 無線 LAN の設定

規格	IEEE 802.11b
ESSID	000000SFC
WEP	なし

1.2 キャンパス外からの接続

学外からでも一般のインターネット回線から，電子メールやファイル転送など CNS の多くのサービスを利用できます．しかし一部のサービスについては，学内からの利用のみ許可している場合があります．以下の方法で，学内からと同等のサービスを利用できます．

1.2.1 VPN 接続

何らかの手段で個人所有 PC を一般のプロバイダ経由でインターネットに接続できる場合，CNS まで暗号化した通信路を確保し，直接 CNS に接続されているのと同等の状態にできます．これにより，CNS 内や塾内に限定されているサービスが，一般のプロバイダから利用できます．この技術を ‘VPN’ (Virtual Private Network) といいます．

CNS では Web ブラウザを用いる “Web VPN サービス”，Windows で手軽に利用できる “L2TP-VPN サービス”，専用のアプリケーションを用いる “IPSec VPN サービス” が用意されています．Web VPN サービスでは，VPN 経由で利用できるサービスは Web のみに限られますが，Web ブラウザ以外に特別なアプリケーションを用意する必要がありません．他のサービスでは一度設定が必要となりますが，Web 以外の通信も暗号化して行うことができます．

VPN サービスの詳細と個人所有 PC での設定方法は，ITC の VPN サービスの Web ページ (<http://itc.sfc.keio.ac.jp/vpn/>) を参照してください．

1.2.2 フレッツサービスの利用

神奈川県内と町田市および稲城市の一部であれば，NTT 東日本のサービスであるフレッツ・ISDN，フレッツ・ADSL や B フレッツを利用して，CNS へ接続できます．この場合，学内と同等のサー

ビスが利用できます。ただし、NTT 東日本・SFC 間の専用線の通信速度が 1.5Mbps しかないため、それ以上高速なフレッツサービスを用いても、1.5Mbps 以上の速度は得られません。

フレッツサービスを用いて CNS へ接続する方法については、ITC のフレッツサービスの Web ページ (<http://itc.sfc.keio.ac.jp/flets/>) を参照してください。フレッツサービスの申し込みなどについては、NTT 東日本のフレッツサービスの Web ページ (<http://www.flets.com/>) を参照してください。

1.2.3 ダイヤルアップ接続

一般の電話回線や ISDN 網、および PHS(PIAFS Ver.2.1) を経由して CNS へ接続できます。これを“ダイヤルアップ接続”といいます。CNS では電話回線を利用して接続する際に、PPP(Point-to-Point Protocol) という通信規格を利用します。この方式を利用する接続を“PPP 接続”といいます。

ダイヤルアップ用電話番号、接続可能台数や機能の変更は ITC のダイヤルアップ接続の Web ページ (<http://itc.sfc.keio.ac.jp/ppp/>) を参照してください。個人所有 PC からダイヤルアップを行う方法は、Windows の場合は `win-dialup`、Mac OS の場合は `mac-dialup` を参照してください。

2 リモートホストへの接続

コンピュータの前で直接利用してログインするのではなく、遠隔地のコンピュータに別のコンピュータからネットワーク経由でログインすることを“リモートログイン”といいます。CNSにはリモートログインできるサーバが用意されており、これらにリモートログインすることで、個人所有 PC から CNS のサービスを利用できます。リモートログインには‘SSH’ (Secure SHell) という仕組みを用います。SSH を用いた通信は暗号化されるので、ほかのリモートログインの手段に比べて安全に操作を行えます。

2.1 CNS のサーバ

CNS にはリモートログインできる UNIX サーバが用意されており、原則として 1 日 24 時間利用できます。メンテナンスなどで停止する場合は、ITC の Web ページ (<http://itc.sfc.keio.ac.jp/>) で告知されます。表 2.1 にリモートログインできるサーバの一覧を示します。

表 2.1 リモートログインできるサーバ

ホスト名	OS	内容
ccz00	Solaris 8	コミュニケーション・計算サーバ
ccz02	Solaris 8	コミュニケーション・計算サーバ
ccz03	Solaris 8	データベースサーバ
ccx00	Debian/GNU Linux 3.0	コミュニケーション・計算サーバ
mail	Solaris 8	電子メールサーバ
webedit	Debian/GNU Linux 3.0	個人ページ作成・テスト用サーバ
cs0	Solaris 8	卒業生ユーザ専用のコミュニケーション・計算サーバ

2.2 Windows でのリモートログイン

Windows から SSH でリモートログインを行うには、SSH クライアントというソフトウェアをインストールする必要があります。ここでは、代表的な SSH クライアントである PuTTY を利用して、Windows からリモートログインする方法について説明します。

準備

PuTTY は Simon Tatham (<http://www.chiark.greenend.org.uk/~sgtatham/>) が作成した SSH クライアントです。PuTTY は、英語圏での使用を想定しているため、日本語を表示できない場合があります。日本語を使用するには、栄楽 英樹 (<http://www.coins.tsukuba.ac.jp/~hdk/>) が作成した日本語版 PuTTY を使用する方が良いでしょう。

PuTTY のインストール方法については、PC@SFC の説明 (<http://pc.sfc.keio.ac.jp/info?PuTTY>) や ITC の SSH 利用についてのページ (<http://itc.sfc.keio.ac.jp/ssh/>) などを参考にしてください。次に、PuTTY 起動後の操作について説明します。

接続方法

図 2.1 のように、「ホスト名 (または IP アドレス)(N)」に接続先のホスト名 ('ccz00.sfc.keio.ac.jp' など) を入力し、「プロトコル」は SSH を選択します。「ポート (P)」が 22 になっていることを確認したら、「開く (O)」ボタンを押して接続します。



図 2.1 PuTTY の設定

はじめて接続するリモートホストの場合は、図 2.2 のように、接続先のホストを信頼するか問うダイアログウィンドウが表示されるので、「はい (Y)」を選択します。



図 2.2 はじめてログインするホストの確認

その後、ログイン名とパスワードの入力を求められるので、CNS のログイン名とパスワードを入力します。

ログアウトと終了方法

logout コマンドを実行すると、リモートホストからログアウトして PuTTY のウィンドウが自動的に閉じます。ウィンドウが自動的に閉じない場合は、PuTTY のウィンドウの左上にあるアイコンを押し、[閉じる] を選択します。

2.3 Mac OS でのリモートログイン

Mac OS から SSH でリモートログインを行うには、OS に付属の 'Terminal' から ssh コマンドを利用します。次に Terminal を用いたリモートログインの方法を説明します。

Terminal の起動と終了

Dock の Finder アイコンを押し、表示されたウィンドウ上部のアプリケーションアイコンを押します。アプリケーションフォルダが表示されるので、その中にある Utilities フォルダをダブルクリックします。Terminal というアプリケーションをダブルクリックすると、Terminal が起動します (Mac OS のバージョンにより、Utilities フォルダは 'ユーティリティ'、Terminal は 'ターミナル' と表示されます)。



図 2.3 Terminal

Terminal の終了には、Terminal のメニュー [Terminal] から [ターミナルを終了] を選択します。

リモートログイン

Terminal が起動すると % が表示されてキー入力可能な状態になります。ssh (ログイン名)@ (ホスト名) の書式でコマンドを実行します。例えばリモートホスト ccz00.sfc.keio.ac.jp にユーザ t00000tf としてログインする場合は、次のように入力します。

実行例

```
% ssh t00000tf@ccz00.sfc.keio.ac.jp <ENTER>
```

リモートホストのユーザのパスワードを聞かれるので、パスワードを入力して<ENTER>を押すと、リモートホストにログインできます。リモートホストからログアウトするには、logout コマンドを実行します。

ssh コマンドの使い方は UNIX と同様です。コマンドの詳細な説明は [unix-ssh](#) を参照してください。

3 ファイル転送

個人所有 PC で作成したファイルを CNS のホームディレクトリなどに保存するためには、ファイル転送アプリケーションを用います。CNS では SSH を利用した、ファイルを安全に転送するアプリケーションを推奨しています。

3.1 Windows でのファイル転送

Windows のコンピュータから SSH を用いてファイルの転送を行うアプリケーションの 1 つに、WinSCP があります。次に、WinSCP の利用方法について説明します。

インストール

Web ブラウザで、<http://winscp.sourceforge.net/> を開きます。ページ上部の ‘Download’ を選択すると、ソフトウェアの一覧が表示されるので、最新版のインストールパッケージを選択し、ダウンロードします (‘multilanguage installation package’ を選択すると、インストール後に日本語で利用できます)。ダウンロード後は、ファイルをダブルクリックしてインストールできます。

リモートホストへの接続

スタートメニューから、[すべてのプログラム] [WinSCP3] [WinSCP] を選択します。

WinSCP を起動すると、‘WinSCP ログイン’ ダイアログ (図 3.1) が表示されるので、左にあるメニューの ‘セッション’ を選択し、右に表示されるテキストボックスに表 3.1 のとおり必要事項を入力し、[ログイン] 押してリモートホストへ接続します。



図 3.1 ログインダイアログ

表 3.1 WinSCP での接続に必要な事項

ホスト名	リモートホスト名
ポート番号	22
ユーザ名	CNS のログイン名
パスワード	CNS パスワード

はじめてログインするリモートホストの場合、そのホストへの接続を確認するダイアログ (図 3.2) が表示されるので、[はい (Y)] を押します。



図 3.2 はじめてログインするホストの確認

ファイルやディレクトリの操作

ログインが成功すると、ウィンドウの左側にローカルホスト (自分のコンピュータ)、右側にリモートホスト (接続先のコンピュータ) のディレクトリー一覧が表示されます (図 3.3)。

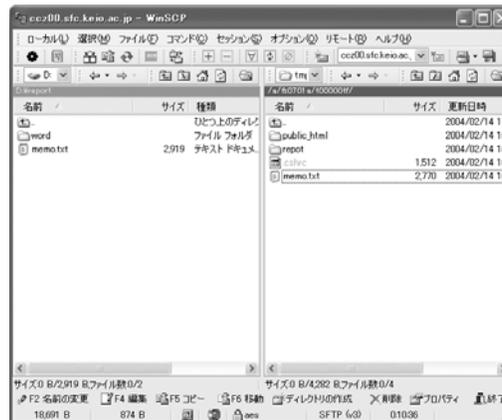


図 3.3 WinSCP のメインウィンドウ

ファイルの転送

転送したいファイルを選択し、メニューバーの [ファイル (F)] から [コピー (Y)] を選択するとローカルホストからリモートホスト、またはリモートホストからローカルホストへファイルが転送されます。また、ファイルのドラッグ・アンド・ドロップでも転送できます。なお、メニューバーの [ファイル (F)] から [移動 (M)] を選択すると、ファイルは転送元のホストに残らず転送先に送られます。

ファイルの転送の際、ローカルホスト側に表示されているフォルダの名前に日本語が含まれている場合は、うまくファイルが転送されない場合があります。例えば、デスクトップやデスクトップ上にあるフォルダを表示している場合です。

ディレクトリの作成

ディレクトリを作成したい側を選択し、メニューバーの [ファイル (F)] から [ディレクトリの作成 (C)] を選択します。ディレクトリ名を入力するウィンドウが表示されるので、ディレクトリの名前を入力して [OK] を押すと、ディレクトリが作成されます。

ファイルやディレクトリ名の変更

名前を変更したいファイルやディレクトリを選択し、メニューバーの [ファイル (F)] から [名前の変更 (R)] を選択します。変更後の名前を聞かれるので名前を入力して [OK] を押すすると、名前が変更されます。ファイル名やディレクトリ名に日本語を使用した場合、UNIX でファイルを閲覧した場合にうまく表示できない場合があるので、英数字を用いて名前をつけます。

ファイルやディレクトリの削除

削除したいファイルやディレクトリを選択し、メニューバーの [ファイル (F)] から [削除 (D)] を選択します。

切断

メニューバーの [コマンド (C)] から [終了 (Q)] を選択すると、接続を終了するか問うダイアログウィンドウが表示されます。[OK] を押すと WinSCP が終了します (図 3.4)。



図 3.4 切断確認ダイアログウィンドウ

3.2 Mac OS でのファイル転送

Mac OS でファイル転送を行うソフトの 1 つに、Fugu があります。Windows の場合と同様、マウス操作でファイルの転送が行えます。ただし、リモート側のファイル名やディレクトリ名に日本語の文字があると、正常に動作しないことがあります。

インストール

Fugu の Web ページ (<http://rsug.itd.umich.edu/software/fugu/>) を開き、‘download’ を選び、最新のディスクイメージをダウンロードします。ダウンロードしたファイル名が ‘.dmg’ で終わるファイルをダブルクリックし、マウントします。表示された Fugu のアイコンを、Mac OS の ‘アプリケーション’ など適切なフォルダへ移動します。ダウンロードしたファイルはゴミ箱へドラッグすることで、マウントを解除します。移動した先の Fugu のアイコンを選択すると Fugu が起動します。

リモートホストへの接続

Fugu を起動すると図 3.5 ような画面が表示されます。‘Connect to:’ の欄にリモートホスト名、‘Username:’ の欄に CNS のログイン名を入力し、[Connect] ボタンを押して接続します。

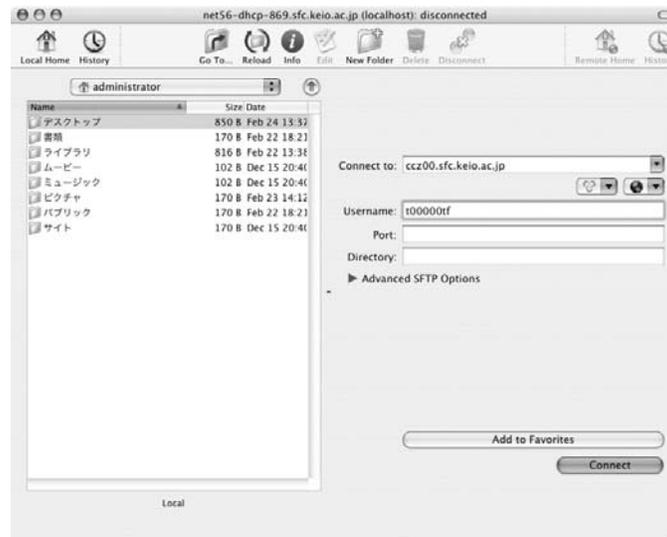


図 3.5 ログイン先の入力

次の画面で図 3.6 のようにパスワードを尋ねられるので、CNS パスワードを記入し [Authenticate] を押します。

正常に認証されると、図 3.7 左側にローカルホスト (自分のコンピュータ)、右側にリモートホスト (接続先のコンピュータ) のディレクトリ一覧が表示されます。

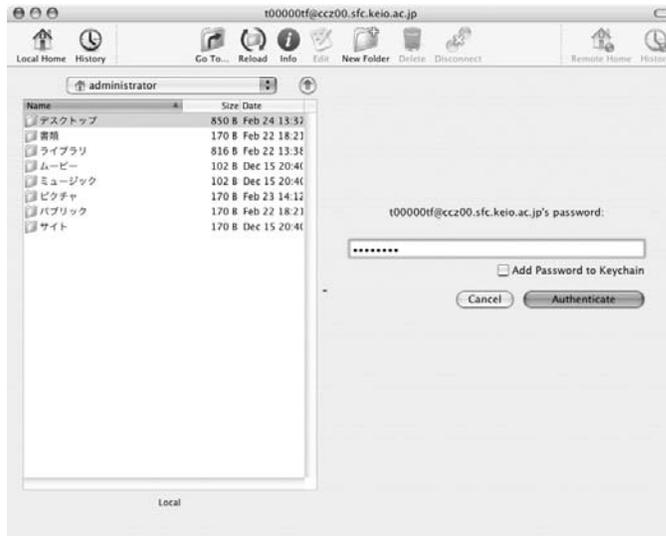


図 3.6 パスワードの入力

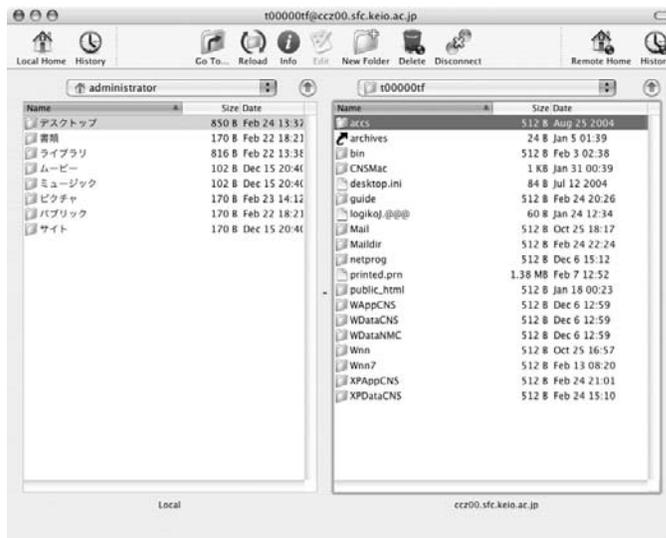


図 3.7 Fugu のメインウィンドウ

ファイルの転送

転送したいファイルをドラッグ・アンド・ドロップして、ファイルの転送が可能です。たとえばローカルからリモートに転送するには、左のディレクトリー一覧から転送したいファイルを、右の現在のディレクトリへドラッグ・アンド・ドロップします。

切断

メニューアイコンの [Disconnect] ボタンを押すと、リモートホストとの接続を切断でき Fugu を安全に終了できます。

4 電子メールの利用

ここでは、CNSにおいてWindowsとMac OSとで電子メールを利用するための方法を説明します。

どちらのOSを利用する場合も、事前にIMAPパスワードの設定(p.15)を完了していることを確認してください。CNSでのIMAP利用に関するより詳しい情報については、[mail-imap](#)を参照してください。

4.1 Windowsでの電子メールの利用

Windowsで電子メールを利用するためのメールソフトウェアBecky! Internet Mail(以下、Becky!)のインストール手順と、IMAPで電子メールを利用する際の設定方法を説明します。なお、Becky!の使い方については[mail-becky](#)を参照してください。

Becky!はシェアウェア(有料ソフトウェア)ですが、慶應義塾大学ではライセンスをまとめて契約しています。Becky!を利用する場合は、ITCのWebページから申請してください(<https://itc.sfc.keio.ac.jp/soft/>)。

4.1.1 Becky!のインストール

Becky!をダウンロードする

Becky!を配布しているWebページ(<http://www.rimarts.co.jp/becky-j.htm>)をWebブラウザで開き、[図 4.1](#)に示したリンクからファイルをダウンロードして、適当なところに保存してください。

Becky!をインストールする

ダウンロードしたファイルをダブルクリックして実行するとインストールが始まります。特に指定する必要のない場合はそのまま[OK]を押して次へ進んでください。インストールが終了すると‘セットアップが完了しました。続いて表示されるReadme.txtをお読みください。’というダイアログウィンドウが表示されます。[OK]を押してReadme.txtを表示します。ひととおり目を通したら、ウィンドウを閉じてください。

4.1.2 Becky!の設定

Becky!を実際に利用するのに必要な設定の手順を説明します。なお、この設定を行う前に‘IMAPパスワード’(p.15)を参照して事前にIMAPパスワードを設定しておく必要があります。デスクトップにBecky!のアイコン([図 4.2](#))ができていますので、これをダブルクリックします。

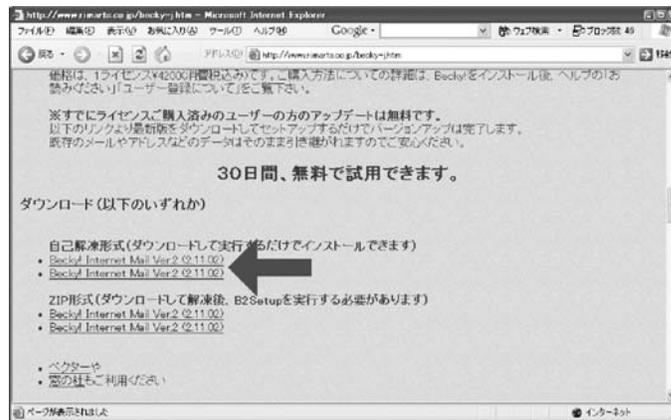


図 4.1 Becky!インストーラへのリンク

Becky!のデータフォルダの作成

Becky!のメールのデータの保存場所の入力が求められます(図 4.3)。保存場所はデフォルトで設定されているので、特に指定する必要のない場合は、そのままにして[OK]を選択してください。



図 4.2 Becky!のアイコン



図 4.3 データフォルダの指定

ライセンスとユーザ登録

使用許諾契約書が表示されます。Becky!を使うためにはこの契約書に同意しなければなりません。同意する場合には[同意する]を押します。同意できない場合には、Becky!は利用できません。

[同意する]を選択した場合は、プラグインのインストールへと進みます。プラグインとは、ソフトウェアの機能を強化するソフトウェアです。Becky!をはじめて起動すると、Becky!に標準で用意されているプラグインが検出されます。標準で用意されているプラグインは安全なソフトウェアなので、ここでは[OK]を押します。

次に、シェアウェア登録に移ります(図 4.4)。登録パスコードを既に取得している場合は、図 4.4 で[ライセンス購入済み、ユーザ登録を行います。]を選択してください。まだ登録パスコードを取得していない場合には、とりあえず[OK]を選択し、試用期間(30日間)中に <https://itc.sfc.keio.ac.jp/soft/> を参照して登録パスコードを取得し、その後でユーザ登録をしてください。

図 4.4 で[ライセンス購入済み、ユーザ登録を行います。]を選択した場合、ユーザ登録(図 4.5)にすすみます。前もって取得した登録パスコードを入力して、[OK]を選択してください。

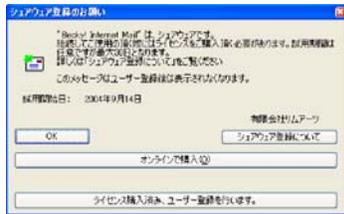


図 4.4 シェアウェア登録

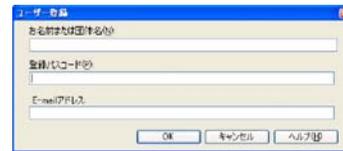


図 4.5 ユーザ登録

メールボックスの設定

ここまでの設定が完了すると、図 4.6 のようなウィンドウが出てきます。もしこのウィンドウが表示されなかったり、ウィンドウを閉じてしまった場合は図 4.7 のボタンからのウィンドウを表示できます。

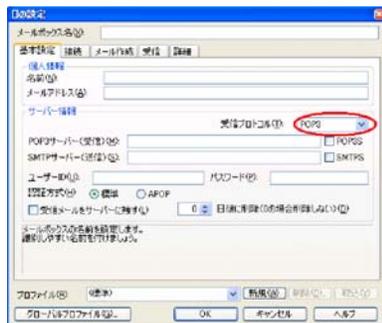


図 4.6 メールボックスの設定 (1)



図 4.7 メールボックス設定ボタン

さて、図 4.6 のマルで示した '受信プロトコル (T)' の欄ははじめの状態では 'POP3' になっているはずですが、まずはじめに、この欄の 'POP3' となっているところを変更して、'IMAP4rev1' を選んでください。すると、他の入力欄が図 4.8 のように変わります。ここで図 4.8 の丸で囲った部分に、次のような入力をしてください。

メールボックス名: 好きなメールボックスの名前

名前: 自分の名前

メールアドレス: 自分のメールアドレス (例: t00000tf@sfc.keio.ac.jp)

IMAP サーバー (受信): imap.sfc.keio.ac.jp

SMTP サーバー (送信): smtp.sfc.keio.ac.jp

ユーザー ID: CNS のログイン名 (例: t00000tf)

認証方式: CRAM-MD5

入力が終わったら、さらに、同じウィンドウの [詳細] タブを選択して、図 4.9 のような画面に移ります。丸で囲った部分のように、'SMTP 認証' と 'CRAM-MD5' をチェックしています。

SMTP 認証: チェックする

認証方式: CRAM-MD5 をチェックする

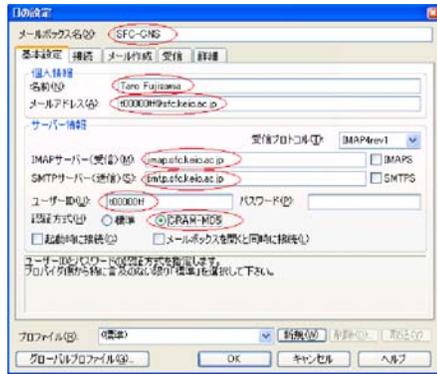


図 4.8 メールボックスの設定 (2)

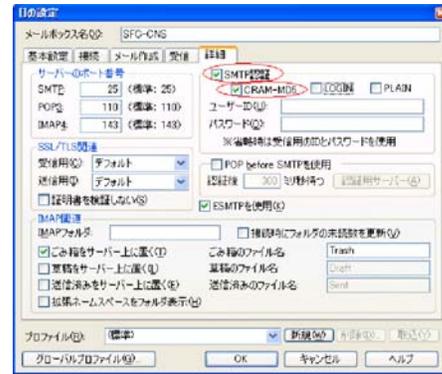


図 4.9 メールボックスの設定 (3)

以上で、Becky!の設定は終わりです。

4.2 Mac OS での電子メールの利用

Mac OS では、OS とともにメールソフトウェア Mail(以下、Apple Mail) がインストールされています。ここでは Apple Mail の IMAP でメールを利用するための設定方法を説明します。まず、デスクトップ画面下部の Dock のアイコン (図 4.10) から Apple Mail を起動します。



図 4.10 Apple Mail のアイコン



図 4.11 Apple Mail を初めて起動すると現れるウィンドウ

Apple Mail を初めて起動した場合は図 4.11 のようなウィンドウが表示されます。入力フォームに次のような入力をしてください。

- 氏名: 自分の名前
- メールアドレス: 自分のメールアドレス (例: t00000@sfc.keio.ac.jp)
- 受信メールサーバ: imap.sfc.keio.ac.jp
- アカウントの種類: 'IMAP' を選択
- ユーザ名: CNS のログイン名 (例: t00000tf)
- パスワード: IMAP 用のパスワード (空欄でも可)

送信用メールサーバ (SMTP): smtp.sfc.keio.ac.jp

この設定は Apple Mail を起動した状態でメニューにある [Mail] から [環境設定] を選べば (図 4.12), 図 4.14 のウィンドウから何度でもやり直せます。



図 4.12 メニューから環境設定を選ぶ



図 4.13 既存のメールボックスの読み込み

[OK] を押して次に進むとそれまでに利用していたメールソフトウェアのメールボックスを Apple Mail に読み込むかどうかを聞かれます (図 4.13)。初めてメールの設定をする場合はそのまま [いいえ] を選択して次に進んでください。

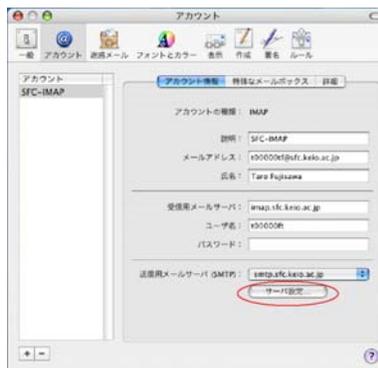


図 4.14 アカウント情報の入力

次に、アカウント情報の設定に進みます。図 4.14 のようなウィンドウが現れない場合は Apple Mail を起動した状態でメニューにある [Mail] から [環境設定] を選んで (図 4.12) ください。ここで、次のとおりに入力してください。

説明: このメールアカウントの説明です (例: SFC-IMAP, 空欄でも可)

メールアドレス: 自分のメールアドレス (例: t00000tf@sfc.keio.ac.jp)

氏名: 自分の名前

受信用メールサーバ: imap.sfc.keio.ac.jp

アカウントの種類: 'IMAP' を選択

ユーザ名: CNS のログイン名 (例: t00000tf)

パスワード: IMAP パスワード (空欄でも可)

送信用メールサーバ (SMTP): smtp.sfc.keio.ac.jp

入力が終わったら、図 4.14の [サーバ設定] ボタン (丸で囲ったボタン) から SMTP サーバに関する設定に移ります。図 4.15の入力欄に、次のとおりに入力してください。入力が終わったら、[OK] を押してこのウィンドウを閉じます。

SSL(Secure Sockets Layer) を使用: チェックを入れる

認証: 'パスワード' を選択する

ユーザ名: CNS のログイン名

パスワード: IMAP パスワード (空欄でも可)



図 4.15 SMTP サーバに関する設定

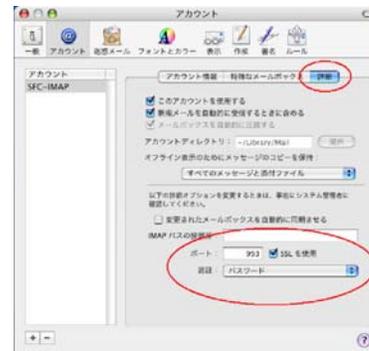


図 4.16 アカウントに関する詳細設定

次に、図 4.14から、[詳細] タブに移ります (図 4.16)。次のように入力してください。

SSL を使用: チェックを入れる (このとき、自動的にポートが 993 に設定される)

認証: 'パスワード' を選択する

以上で Apple Mail の設定は終わりです。入力が終わったらウィンドウ左上のボタンで閉じ、設定を保存してください。

5 セキュリティホール対策

ここではセキュリティホール (p.27) への対策について説明します。セキュリティホール対策を行うことでオペレーティングシステムに必要な修正プログラムをインストールし、システムを最新の状態に維持できます。怠るとウイルスに感染したり、コンピュータが攻撃を受けたりする恐れがありますので必ず定期的に行ってください。

5.1 Windows Update

Windows Update にて更新プログラムをインストールする方法を説明します。Windows Update は Microsoft 社の Windows Update の Web ページにアクセスして行います。Windows Update を行う際には、実行する前に Internet Explorer を除いたすべてのプログラムを終了してください。またインターネットに接続した状態で行ってください。

5.1.1 アップデート方法

[スタート]メニューから[すべてのプログラム]にある[Windows Update]を選択します。マイクロソフトの Web ページにアクセスされ、図 5.1 のような画面が表示されます。また、このページは Internet Explorer から Windows Update の Web ページ (<http://windowsupdate.microsoft.com/>) を開いても表示できます。



図 5.1 Windows Update の Web ページ

[高速インストール (推奨)] を選択します。'利用可能な更新プログラムを検索しています' と表示されます。しばらくすると図 5.2 のようなページが表示されるので、[インストール] を選択します。'更新をインストールしています' と表示されるので、インストールが終わるまでそのまましばらく待ちます。



図 5.2 高速インストール

『お使いのコンピュータは正しく更新されました。』と表示されればインストールは完了です。右下の [今すぐ再起動] を選択し、コンピュータを再起動します。

5.1.2 自動更新

次に、Windows Update を自動更新に設定する方法を説明します。自動更新を設定しておく、指定された時刻にコンピュータがセキュリティ更新プログラムを自動的に確認してインストールを行います。図 5.1 の Windows Update の Web ページ (<http://windowsupdate.microsoft.com/>) を開いた際、[自動更新を有効にする] というボタン (図 5.3) が表示されている場合には自動更新が有効になっていません。自動更新を有効にしておくことを推奨します。

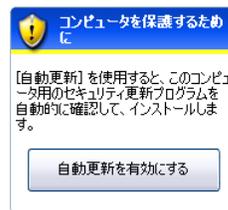


図 5.3 自動更新を有効にする

Windows Update の Web ページから設定する

図 5.3 の [自動更新を有効にする] ボタンを押します。[自動更新] のダイアログボックス (図 5.4) が表示されます。自動更新を行う曜日と時刻を選択し、[OK] を押します。



図 5.4 自動更新ダイアログボックス

コントロールパネルから設定する

[スタート] から [コントロールパネル] を選択します。コントロールパネルから [パフォーマンスとメンテナンス] を選択し、[システム] を押すと [システムのプロパティ] が表示されます。

[自動更新] タブを選択します。コントロールパネルがクラシック表示になっている場合は自動更新のアイコン (図 5.5) をダブルクリックします。



図 5.5 自動更新

自動更新を設定する画面 (図 5.6) が表示されます。[自動 (推奨)] をチェックし、自動更新を行う曜日と時刻を選択します。



図 5.6 自動更新設定画面

選択を終了したら [OK] を押します。

5.2 Apple Security Update

Apple Security Update にて Mac OS のセキュリティに関する更新プログラムをインストールする方法を説明します。Apple Security Update を行うには、Apple 社の Web ページから更新をダウンロードしインストールする方法と、システム環境設定のソフトウェア・アップデートを用いて Security Update をインストールする方法の 2 つがあります。どちらもインターネットに接続した状態で行ってください。

画面左上のアップルマークから [ソフトウェア・アップデート] を選択します。新しいソフトウェアが確認され、更新があればその一覧 (図 5.7) が表示されます。Security Update 以外にもソフトウェアの更新があれば表示されます。定期的に確認してください。

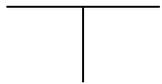
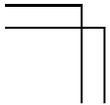
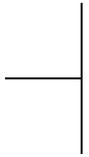


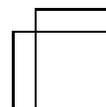
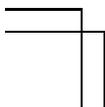
図 5.7 ソフトウェア・アップデート

右下の [1 項目をインストール] を押します。認証画面でパスワードを聞かれた場合はパスワードを入力してください。使用許諾契約が表示されます。同意できるようでしたら [同意します] を選択してください。インストールが開始されます。インストールが終了すると再起動を求められるので、[再起動] を押しコンピュータを再起動します。

また、Security Update は Apple 社の Web ページからもダウンロードできます。Web ブラウザを立ち上げ、Apple ソフトウェアアップデートのページ (<http://www.apple.com/jp/ftp-info/>) を表示します。上から順番に新しい更新のダウンロード画面へのリンクが表示されています。その中でまだ行っていない Security Update の項目へのリンクがある場合にはそれを選択します。Security Update をダウンロードする画面が表示され、画面中央にダウンロード ID とファイルサイズが表示されます。ファイルサイズの表示がリンクになっているのでクリックします。更新がダウンロードされます。

付録





SFC-CNS 利用内規

CNS/ERNS 利用者各位

湘南藤沢キャンパス

湘南藤沢キャンパス キャンパスネットワークシステム利用内規

以下のとおり、湘南藤沢キャンパス - キャンパスネットワークシステム (以下 SFC-CNS という) の利用内規を定める。

- I SFC-CNS 利用者は、SFC-CNS が学術用ネットワークであることを承知しているものとする。
- II 教育・研究目的に該当しない以下のような行為には、SFC-CNS アカウントの利用承認の取り消し、または一定期間 SFC-CNS の利用を停止する場合がある。アカウントの利用承認取り消しや利用停止によって、履修単位を取得できないなどの不利益を被ることがあるので、注意すること。
 - 1 営利目的での利用
 - 2 公序良俗に反する行為
 - 3 他人のプライバシーを侵す行為
 - 4 ネットワークの正常な運用を妨害する行為
 - 5 著作権などの知的所有権を侵害する行為
 - 6 慶應義塾大学の品位を落とすような行為
 - 7 その他、法令、学内規定に違反する行為
- III ネットワークの正常な運用を妨げる機器が発見された場合、SFC-CNS との接続を遮断する場合がある。
- IV この内規は、不定期に見直されることがある。その場合は、現在の内規に上書きして運用される。
- V 湘南藤沢キャンパスは、以上を承知した者に SFC-CNS のアカウントを発行する。

以上

制定：2003 年 (平成 15 年) 9 月 3 日

施行：2003 年 (平成 15 年) 9 月 3 日

貸出ノートPCソフトウェア一覧

分類	ソフトウェア
Access IBM	IBM ハードディスク・アクティブプロテクション・システム バッテリー省電力ウィザード
Adobe	Acrobat Distiller Adobe Acrobat
Archiver	Lhaca Lhaplus
Browser	Mozilla Firefox Internet Explorer
Cygwin	Cygwin Bash Shell
DataAnalysis	JMP R SPSS The SAS System
DVD	DeepBurner DVD Decrypter VideoLAN (VLC media player)
Editor	TeraPad xyzyy
Graphics	GIMP IrfanView32
MailSoft	Becky!
Microsoft Office	Microsoft Office Access Microsoft Office Excel Microsoft Office InfoPath Microsoft Office Outlook Microsoft Office PowerPoint Microsoft Office Publisher
MediaPlayers	iTunes QuickTime RealPlayer SoundMAX Windows Media Player
Network	Net Waiting PuTTY TeraTermPro WinSCP
その他	CreW Typing

CNS 関係組織連絡先

ITC

場所	メディアセンター 1 階 北側 (CNS/ERNS サービス窓口)
電子メール	cns-request@sfc.keio.ac.jp
URL	http://itc.sfc.keio.ac.jp/
内線	52512
外線	0466-49-3423
CNS/ERNS	9:15 ~ 17:00
サービス窓口受付時間	土曜日・日曜日・祝日・慶應義塾の定める休日は休業

CNS コンサルタント

場所	メディアセンター 1 階 CNS コンサルタントブース
電子メール	cns-consultant@sfc.keio.ac.jp
URL	http://cnscon.sfc.keio.ac.jp/
内線	52519
外線	0466-49-3425
利用可能時間	月～金 9:20～22:30 土曜日・日曜日・祝日・慶應義塾の定める休日は休業 長期休業中については上記の URL を参照

AV コンサルタント

場所	メディアセンター 1 階 AV コンサルタントブース
電子メール	av-consultant@sfc.keio.ac.jp
URL	http://www.sfc.keio.ac.jp/mhtml/AVconsultant/

DB コンサルタント

場所	メディアセンター 2 階 データベース検索コーナー
電子メール	db-consultant@sfc.keio.ac.jp
URL	http://www.sfc.keio.ac.jp/mhtml/DBconsultant/

看護ファクトタム

場所	看護医療学部メディアセンター内カウンター
電子メール	fact-support@sfc.keio.ac.jp
URL	http://nmcfact.sfc.keio.ac.jp/
内線	55250
利用可能時間	Web ページ参照

PC@SFC

電子メール	pc@sfc.keio.ac.jp
URL	http://pc.sfc.keio.ac.jp/

SFC CNS ガイドの著作権・著作権について

SFC-CNS の環境は多くのフリーソフトウェア、フリードキュメント、パブリックドメインソフトウェアの恩恵を受けています。この恩恵に少しでも応えるために、SFC CNS ガイドは次のような方針でその再利用を広く認め、社会に貢献していきます。

- 下記の再配布規定に基づく、複写、翻訳、改変、修正、引用を許諾します。
- 下記の再配布規定に基づく、印刷、配布、販売を許諾します。
- 希望者には、電子媒体で原稿を配布します。

(cns-guide-req@sfc.keio.ac.jp への電子メールで受け付けます。)

再配布規定

- 出典を明記してください。
- 本書の原稿が無料で公開されていることを明記してください。

キャンパス外無保証

本書の内容については、慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス外からの問い合わせには応じていません。また、本書の補足訂正情報の、キャンパス外への積極的な公開は行っていません。

SFC CNS ガイド 2005 年度版

©1993-2005 慶應義塾大学

発行日 2005 年 4 月 1 日

編集 SFC CNS ガイド編集委員会

発行 慶應義塾湘南藤沢 ITC

〒252-8520 神奈川県藤沢市遠藤 5322

電話 0466 (47) 5111 (代表)

電子メール cns-guide-req@sfc.keio.ac.jp

印刷 大日本印刷株式会社



装丁 カミヤヒサヤス

